ISSN：0037－3796

神経化学

Bulletin of the Japanese Neurochemical Society

Vol. 32 (No. 2), 1993

平成 5 年 12 月

目　次

理事会議事録…… 1

評議員会・総会議事録…… 11

第36回日本神経化学会プログラム…… 17

日本学術会議だより…… 51

「千里ライフサイエンスセミナー」のお知らせ…… 57

役員・委員会名簿…… 58

評議員名簿…… 60

賛助会員名簿…… 62

日本神経化学会会則・細則…… 63

理事会議事録

○平成5年度第1回理事会

日　時：平成5年3月10日（水）
13：00～16：30

場　所：東京ガーデンパレス

出席者：植村慶一，宮武　正，永津俊治，小幡邦彦，三木直正，野村靖幸，野口鉄也，宮本英七，竹田　稔，加藤尚彦，畠中　寛，塚田裕三（監事），柿本泰男（前理事長），栗山欣弥（前副理事長），高坂新一（前庶務担当理事），小宮義璋（前出版・広報担当理事），樋口宗史（第36回世話人代理），武富　保（第37回世話人代表）

欠席者：野村正彦，大月三郎（監事），佐武　明（前科研費調査委員会委員長）

議　題

1. 理事改選結果について

平成5年2月19日開票された理事選挙結果について，選挙管理委員会委員長須田治彦氏からの報告書が示された。

理事選挙結果

日本神経化学会細則第2条及び同第4条の規定により理事選挙を実施しましたところ，下記の通りの結果となりましたのでご報告申し上げます。

記

1. 選挙経過

(1) 選挙日程

神経化学　第31巻2号（1992年12月20日発行）公示の要領に従って実施した。

(2) 投票用紙の回収

発送総数　1925通（但し受取人不明で23通は返送された）

投票通数　817通（回収率42.4％）

無効通数　4通（選挙人不明4通）

有効通数　813通

＊但し，1通は投票用紙未封入のため実際の有効通数は812通となった。

(3) 開票場所

学士会分館

(4) 開票立会人

高松　研

藤森勧之助

(5) その他

① 日本神経化学会会則第20条に従い，現理事名を記載した投票については該当理事のみを無効とし，他の記載された被選挙人については無効とした。

② 氏名の誤記等については，特定の被選挙人と判断できる場合には有効とした。

2. 得票順位

当　選　1位　野口　鉄也
同　2位　宮本　英七
同　3位　野村　正彦
同　4位　竹田　稔
同　5位　加藤　尚彦
同　6位　畠中　寛

2. 理事長・副理事長選出の件

出席理事による協議の後投票が行われ，理事長に植村慶一氏（慶應義塾大学医学部生理学）が，副理事長には宮本英七氏（熊本大学医学部薬理学）が，それぞれ選出された。

3. 補充理事選出の件

地域別，分野別及び得票数等を考慮し，出席理事による協議の後投票が行われ以下の3名を補充理事に選出し，前例に従い文書で評議員の承認を得ることとした。

融　道男（東京医科歯科大学医学部神経精神医学）

佐武　明（新潟大学脳研究所神経化学）

加藤　泰治（名古屋市立大学医学部分子医学研究所生体制御部門）

4. 担当理事選任の件

協議の結果，各担当理事（任期2年）を以下のように決定した。

庶　　務：加藤　尚彦理事
会　　計：宮武　　正理事（留任）
出版・広報：畠中　　寛理事

5. 各委員会委員長選任の件

協議の結果，各委員会の委員長（任期2年）を以下のように選任した。

科研費調査委員会：竹田　　稔氏
国際対応委員会　：栗山　欣弥氏（留任）
研究助成金等候補者選考委員会：三木　直正氏

尚，委員の構成については各委員長が早急に選出し，決定することとした。

6. 次期監事選出の件

出席理事による協議の結果，以下の2名が監事候補者として選出され，総会で承認を得ることとした。

柿本　泰男氏（愛媛大学医学部神経精神医学）
黒川　正則氏（東京都精神医学総合研究所）

尚，今回の協議においても，監事は理事経験者の中から選出するという申し合わせ事項（昭和62年3月理事会及び平成元年3月理事会）や基礎・臨床から各1名を選出すること等が考慮された。

7. 庶務報告

事務局より，庶務報告が行われた。

- 総会員数（平成4年12月31日現在）

	2,071名
名誉会員	2名
一般会員	2,023名
学生会員	13名
賛助会員	13件
団体会員	20件

- 新入会員（平成4年1月1日～12月31日）

一般会員	225名
学生会員	2名
合　計	227名

- 退 会 者（平成4年1月1日～12月31日）　131名

8. 会計報告

宮武会計担当理事より，平成4年度（平成4年1月1日～12月31日）の決算報告がなされ，引き続き塚田監事より監査報告があり，了承された。

9. 出版・広報活動報告

小宮前出版・広報担当理事より，以下の報告があった。

(1) 事務局報（神経化学 Vol.31 No.2）出版の件

- 今回の役員選挙のための有権者名簿を掲載し，平成4年12月に予定通り出版された。
- 事務局報の発送に際しては，平成4年10月の理事会で了承された日本生物学的精神医学会の出版案内（チラシ）を，先方の経費負担で同封した。

(2) 英文抄録の件

- Neurochemical Research の編集主幹の Dr. Lajtha より英文抄録を受領したという連絡は受けているが，平成3年度分，4年度分の掲載についての連絡が届いていない。

10. 各委員会報告

(1) 科研費調査委員会

佐武前委員長より委員会報告が提出され，高坂及び小宮前委員より報告内容について説明がなされた。

科学研究費調査委員会報告

科研費調査委員会委員長　佐武　明

平成4年10月22日，委員会を開催し，以下の議題で討議を行った。

1. 日本薬理学会理事長から申し入れのあった文部省科学研究費の配分に係る細目「神経化学・神経薬理学」の審査員の推薦に係る申し合わせ書（案）を検討し，訂正文を柿本理事長に提出した。
2. 科学研究費補助金の審査員選挙有権者の登録すなわち，研究者番号の登録について，原案を作り検討する事とした。
3. 平成5年度科学研究費配分等の調査の方法等については，継続審議と

する事とした。

以上

(2) 研究助成金等候補者選考委員会

宮本前委員長より，以下の報告がなされた。

① 平成4年度日産学術研究助成の件

本学会より推薦した9件のうち，一般研究（B）で白尾智明氏が採択された旨の選考結果通知が届いた。

② 平成4年度ブレインサイエンス振興財団研究助成の件

本学会内で申請のあったものについて，昨年10月20日に名古屋で開催された委員会において慎重に審議し，投票により米田幸雄氏を「研究助成」に推薦した。

また，応募のなかった他の助成について再度募集したところ「海外研究者招聘助成」に1件の応募があり，郵便による協議の結果，鈴木龍雄氏を学会として推薦した。

結果については3月中に届く予定である。

(3) 国際対応委員会

栗山委員長より，報告及び問題提起がなされた。

① 第2回APSN国際会議について

1994年9月にインドで開催を予定している会議について，日本から委員を選出してほしいという依頼状について協議された。先方に内容の確認をするとともに，この件については理事長に一任することになった。

② ISNの役員改選について

今回，半数改選となるCouncilの選挙について日本から宮武　正氏が候補にあがっているので，日本のISNのメンバーに宮武氏への支援の依頼状を送付することにした。

③ 第15回国際神経化学会（ISN '95）

昨年末に日本神経化学会と組織委員会とで交わされた財政的支援の「覚書」について，内容の確認がなされた後，会の準備状況等が報告された。

11. 評議員推薦の件

下記の8名の評議員候補者を審査し，了承され，次回の評議員会・総会に諮ることとなった。

- 大西　　博（大阪市立大学・医）
- 加藤　　聖（金沢大学・医）
- 佐藤　公道（京都大学・薬）
- 鈴木　龍雄（名古屋市立大学・医）
- 伊藤　仁一（名古屋市立大学・医）
- 柳澤　勝彦（東京医科歯科大学・医）
- 樋口　宗史（大阪大学・医）
- 郭　　哲輝（大阪大学・医）

また，高坂前庶務担当理事より，今後も評議員の適否，定年制度を含む任期の問題等を継続的に審議していく必要性について提言があり，同意を得た。

12. 日本薬理学会との「科学研究費審査委員候補者の推薦に関する協定」の件

高坂前庶務担当理事より，この間の経緯について説明がなされた後，昨年10月の理事会での提案を受け，柿本理事長（当時）にも出席戴いた科研費調査委員会で検討された協定文（案）について協議され，承認された。

尚，協定文（案）は日本薬理学会理事長宛に送付し，先方に協議して戴くこととした。

13. 科学研究費補助金の審査委員選挙有権者の登録について

高坂前庶務担当理事より，昨年大会時に開催された科研費調査委員会で検討された有権者の登録方法について下記の提案がなされ，了承された。

① 既会員への有資格者調査について

全個人会員を対象に往復ハガキで研究者番号の有無を調査し，事前に有権者に登録のお願いをする。調査回数は年内に2～3回を予定している。

② 新入会員の登録について

現在の入会申込書の記載内容を一部変更し，研究者番号の有無を登録させることとする。

また，前回の科研費審査委員選挙では選挙管理委員会は科研費調査委員会で構成されたが，次回の選挙より，専門の選挙管理委員会が設置されることが確認された。

14. 第1回APSN国際会議事業報告ついて

永田　豊開催事務局長より提出された事業報告について，塚田裕三組織委員長より概況説明がなされた。

また，APSNに関連して柿本APSN前事務局長より，現在APSN理事会が抱えている問題等について発言があった。

15. 日本学術会議第16期会員の選出に係る学術研究団体の登録について

今年，3年に1度の登録申請が行われるが，前回と同じ内容で登録することで了承を得た。

また，会員の推薦について活発な意見交換がなされた。

16. 第36回日本神経化学会の件

三木直正世話人代表より，大会日程，ミニシンポジウムのあり方，特別講演の内容，演題募集要項の内容について説明がなされ，了承された。

17. 第37回日本神経化学会の件

武富　保世話人代表より日程・会場について報告がなされた。

期　日：平成6年10月6日（木）～8日（土）

会　場：長野県松本文化会館

詳細については秋の理事会で報告されることになった。

18. その他

(1) 第38回日本神経化学会の件

過去の理事会での協議では，平成7年の日本神経化学会は同じ年に開催される第15回国際神経化学会とは切り離し，別途開催されるということで了承されていたが，昨今の経済的な環境等を鑑み，会期等を変更して第15回国際神経化学会とジョイントさせる場合もありうることが確認された。

○平成5年度第2回理事会

日　時：平成5年10月24日（日）
15：00～17：30

場　所：千里ライフサイエンスセンター

出席者：植村慶一，宮武　正，永津俊治，小幡邦彦，三木直正，野村靖幸，宮本英七，野村正彦，竹田　稔，加藤尚彦，畠中　寛，融　道男，佐武　明，加藤泰治
大月三郎（監事）
塚田裕三（監事）
栗山欣弥（国際対応委員会委員長）
樋口宗史（第36回世話人代理）
武富　保（第37回世話人代表）

欠席者：野口鉄也

議　題

1. 庶務報告

加藤庶務担当理事より，庶務報告が行われた。

- 総会員数（平成5年9月30日現在）　2,116名

名誉会員	2名
一般会員	2,068名
学生会員	13名
賛助会員	13件
団体会員	20件

新入会員（平成4年10月10日以降）　197名

退 会 者（平成4年10月10日以降）　137名

- 物故会員

田中達也先生（粟津神経サナトリウム神経生物学研究所）
菊野正隆先生
紺野邦夫先生（城南総合病院）

尚，長期会費滞納者は会則に基づき退会とした旨の報告があった。

- 補充理事詮衡の件

3月10日に開催された理事会で選出された3名の補充理事の承認について全評議員173名に可否を伺ったところ145名より承諾の返答があり承認された旨の報告がなされた。

2. 出版・広報活動報告

畠中出版・広報担当理事より下記の報告・問題提起がなされた。

(1) 英文抄録の件

Neurochemical Reseach への英文抄録掲載について，平成3年度分，4年度分の掲載について先方から連絡が届いていなかった件について，植村理事長よりDr. Lajtha へ照会したところ，平成3年度分については既に平成4年に掲載されており，平成4年度分についてはゲラ刷りの段階であるという返事が届いた。

掲載を確認し，平成3年度の演者にはNeurochemical Reseach のコピーを，また，平成4年度の演者にはゲラ刷りのコピーを至急送付した。

また，本年度分の英文抄録は外人による校閲が遅れているが，済み次第，アメリカへ送付する予定である。

(2) オフィシャル英文誌刊行の件

PERGAMON PRESS から Neurochemistry International（NCI）を日本神経化学会のオフィシャルの英文誌にしてはどうかという申し出があった。英文誌刊行については一昨年，昨年に ELSEVIER 社からの申し入れに対して議論を重ねた結果，刊行を見送ったという経過がある。

PERGAMON PRESS の提示する条件についての疑問点等を先方に質すとともに，今後も継続して審議を続けていくこととした。

3. 会計報告

宮武会計担当理事より，平成5年度会計中間報告（平成5年1月1日～9月30日）及び平成5年度決算見込報告があり了承された。

引き続き平成6年度予算案が示され了承された。ここ数年，学会活動の活発化に伴い支出が増え，繰越金の減少が目立つため，来年度は国際交流積立金は取り止めることとした。また，年会費の値上げについて，今後継続的に検討していくことで合意を得た。

4. プログラム編成報告

三木直正世話人代表より，第36回大会プログラム編成経過について報告があった。

第36回　日本神経化学会
プログラム編成経過報告

1. 演題応募集計結果：

演題申込総数	268 題	
口頭発表希望	157 題	（ポスターも可のもの44題）
ポスター希望	111 題	

2. 審査結果：

2名の審査員で

a.	2名とも採択（無条件）	175題
b.	〃　（コメント有）	27題
c.	1名修正および1名採択	58題
d.	2名修正要求	6題
e.	1名不採用及び1名採択	2題
	計	268題

プログラム委員会において審査員の意見を参考に，審査を行った結果，a の175演題は採択，b, c, d, e の93演題は審査員のコメントを添えて論文原稿の返送修正を求めた。修正論文は，審査員の意見に従い，適切に修正されていたので採択とした。

最終的には，応募演題の268題全演題を採択とした。

3. 発表形式：口頭発表131題，ポスター発表137題とした。

論文審査委員名簿

（ABC順）

阿部　輝雄	新潟大・脳研
阿部　敏明	帝京大・医

朝倉　幹雄　聖マリ医大
浅野　富子　愛知県コロニー
馬場　明道　大阪大・薬
藤沢　仁　旭川医大
福永　浩司　熊本大・医
古川　昭栄　岐阜薬大
飯田　静夫　東京医歯大・医
長谷川和夫　聖マリ医大
畠中　寛　大阪大・蛋白研
林　恭三　岐阜薬大
日高　弘義　名古屋大・医
樋口　宗史　大阪大・医
平野　修助　東邦大・医
芳賀　達也　東京大・脳研
飯田　静夫　東京医歯大・医
井上　順雄　横浜市大・医
礒辺　俊明　都立大・理
柿本　泰男　愛媛大・医
神谷　大雄　福岡大・薬
假屋　哲彦　山梨医大
笠井　久隆　都医療技短大
加藤　兼房　愛知県コロニー
加藤　尚彦　横浜市大・医
加藤　武　横浜市大・総合理学研
加藤　泰治　名古屋市大・医・分子医学研
北村　邦男　埼玉医大
小池　達郎　佐賀医大
高坂　新一　国立精神神経センター
小幡　邦彦　国立生理研
栗原　正　創価大・生命科学研
栗山　欣弥　京都府医大
黒田洋一郎　都神経研
桑野　良三　新潟大・遺伝子実験施設
松田　誠　慈恵医大
三木　直正　大阪大・医
御子柴克彦　東京大・医科研
三宅　正治　神戸学院大・薬
宮本　英七　熊本大・医
宮田　健　熊本大・薬
宮武　正　東京医歯大・医
永田　豊　藤田保衛大・医
永津　俊治　藤田保衛大・総合医科
中嶋　照夫　京都府医大
西村　健　大阪大・医
野口　鉄也　東邦大・医
野村　正彦　埼玉医大
野村　靖幸　北海道大・薬
大熊誠太郎　京都府医大
斎藤　喜八　大阪大・歯
佐野　護　愛知県コロニー
仙波りつ子　愛知県コロニー
庄盛　敏廉　岡山大・医
祖父江憲治　大阪大・医
反町　勝　鹿児島大・医
竹田　稔　昭和大・医
武富　保　信州大・医・心脈管病研
玉井　洋一　北里大・医
田中　亮　名古屋市大・医
田代　朋子　群馬大・医
融　道男　東京医歯大・医
遠山　正彌　大阪大・医
辻　省次　新潟大・脳研
内村　英幸　国立肥前診療所
植村　慶一　慶應大・医
渡邉　建彦　東北大・医
山上　栄　大阪市大・医
山内　卓　徳島大・薬
米田　幸雄　摂南大・薬
吉川　和明　都神経研

プログラム編成委員会

（ABC順）

馬場　明道　大阪大・薬
福井　裕行　大阪大・医
播口　史朗　大阪大・医
畠中　寛　大阪大・蛋白研
早川　徹　大阪大・医
樋口　宗史　大阪大・医
松田　敏夫　大阪大・薬
西村　健　大阪大・医
大西　博　大阪市大・医
大和谷　厚　大阪大・医
祖父江憲治　大阪大・医
種子田　護　大阪大・医

山上　栄　大阪市大・医
(代表)三木　直正　大阪大・医

5. 各委員会報告

(1) 研究助成金等候補者選考委員会

三木委員長より下記の報告がなされた。

① 平成5年度日産学術研究助成候補者推薦の件

平成5年度日産学術研究助成候補者の一般研究（A）に渡邉建彦氏，栗山欣弥氏を，一般研究（B）に鈴木龍雄氏を，奨励研究では武井延彦氏，五十嵐道弘氏，池田正明氏，久永欣哉氏，武田泰生氏，横谷　昇氏，中野亮一氏，横山克秀氏の8名を推薦した旨の報告がなされた。

② ファイザーヘルスリサーチ振興財団の件

第2回国際共同研究事業に1件の応募があり学会から推薦したが，残念乍ら選外だった。

③ ブレインサイエンス振興財団助成の件

例年通りの推薦依頼があり，推薦者については10月27日開催の委員会で選考する予定である。

(2) 国際対応委員会

栗山委員長より下記の報告がなされた。

① APSNの件

今年8月に開催された第14回国際神経化学会の際に行われたAPSNのCouncil Meetingの報告がなされた後，下記の件で協議が行われた。

• APSNの会費について

以前，日本神経化学会として一括で支払う案も検討されたが，基本的には国際学会についてはISNのケースと同様に加入している個人が支払うべきであるという見解で合意を得た。

② 第2回APSN国際会議の件

同会議は来年（1994年9/14〜16日），インドでアジア・オセアニア生化学会と前後して開催される予定であるとの報告がなされた。

③ 第15回国際神経化学会（ISN '95）の件

1995年7月2〜7日に京都で開催される同会議の開催準備状況の報告がなされた。

国際対応委員会

日　時：平成5年10月26日（水）
会　場：千里ライフサイエンスセンター
出席者　栗山欣弥（委員長），植村慶一，小幡邦彦，加藤泰治，加藤尚彦，高坂新一，融　道男，中嶋照夫，鍋島俊雄，野村靖幸，芳賀達也，畠中　寛，三木直正，宮武　正，宮本英七，山上　栄
欠席者　永津俊治，西村　健，御子柴克彦，山脇成人

審議事項

1. APSNについて

① 本年8月23−28日にMontpellierで開催された第14回国際神経化学会（ISN）の際，APSNのCouncil Meetingがあり，栗山・植村の両委員が出席したので，その結果が報告された。

② 1994年9月14〜16日の間に第2回のAPSN Meetingが Hyderabal (India) で行われるので，その1stサーキュラーを希望される方は，栗山委員長に申し出るように評議員会・総会で会員に伝えることとした。

2. ISNについて

第15回国際神経化学会（ISN '95）が1995年7月2〜7日に京都で開催されるがその準備状況について報告があった。

特に本委員会としてはそのプログラムの中に出来るだけ多くの会員の要望を取り入れたいので，先ずISN '95のProgram Co-ordination Comittee

のchairmanである宮本英七先生に依頼して希望調査をしてもらうこととなった。

方法としては本学会事務局より全評議員にシンポジウム，招待講演者及びサテライトシンポジウムの提案用紙を送り，これに記入して返送して戴く（本年度末締切）。そして宮本・植村両委員のもとで整理し，これを来年（1994）3月，米国で開催されるISN '95 Program Comitteeに持参し，討議の参考として戴くこととした。

(3) 科研費調査委員会

竹田委員長より下記の報告がなされた。

① 科研費審査委員候補者選挙の有権者登録（研究者番号の登録）の件

今年，2回（3月，7月）にわたり，全会員を対象に研究者番号の登録の依頼をした旨の報告があった。

② 平成6年度科学研究費審査委員候補者選挙について

今年8月に実施された同選挙について以下の報告がなされた。

日本神経化学会では昨年本学会より推薦した審査委員の任期は平成5・6年度に亘るため平成5年は学会に推薦依頼がこないという認識の基で平成7・8年度の候補者の推薦の選出選挙実施の準備をしていた。しかし，8月に日本学術会議第4常置委員会委員長名で学会宛に推薦依頼が届いたため，「日本神経化学会　文部省科学研究費審査委員候補者推薦方法」及び「同　科学研究費審査委員候補者選挙に関する内規」を可能な限り遵守し，理事の同意を得た上で選挙を実施した。

尚，選挙結果は理事長に報告し，上位4名を日本学術会議に推薦した。

③ 「神経化学・神経薬理学」平成5年度採択状況について

「神経化学・神経薬理学」の新細目で採択数および採択されたもののうち日本神経化学会の会員の占める割合のデータが報告された。現段階では文部省が全応募総数を公にしていないため採択率は不明だが，今後もこういった追跡調査の必要性が認識された。

科研費調査委員会報告

委員長　竹田　稔

(1) 研究者番号登録実態調査

科研費細目の採択により審査委員候補選出選挙有権者の確定を行う為に，神経化学会会員で，且つ，研究者番号を有する者の実態調査を実施

3月と7月の2回に亘り，計3053通発送。

総回収数2068通（回収率68%）

研究者番号を有する者　816名

〃　有しない者530名

未登録者　722名

調査を継続し，実態の把握に努める。

(2) 平成6年度科研費審査委員候補者の選挙について

本年8月に日本学術会議第4常置委員会より平成6年度審査委員候補者（第一段：4名）の推薦の依頼が突然あった。

平成5年度に推薦した委員は，平成5・6年度に亘るものと考えていたので緊急事態であった。理事長，副理事長，庶務担当理事及び科研費調査委員会委員長とで緊急協議し選挙の実施を決定。

1) 審査委員候補者適任者の選出について

① 前理事会で選出した12名の候補者は，平成5・6年度の候補者として選出したので全て今回も有効とする。

② 理事改選により理事会構成メンバーが大幅に交代しているので「内規3」に基づく候補者の追加手続きをする。（実際には追加候補者は無し）。

以上2項に基づいて選挙スケジュールを組み実施した。

2) 選挙概要について

① 「内規2」に基づいて科研費審査委員候補者選挙管理委員会を8月18日に設置。

② 「内規6，8，9」に基づいて選挙人を確定（但し，研究者番号の登録中であった為，追加審査委員候補者の推薦締切日の8月20日までの研究者番号登録済の会員を有資格者とした）。

③ 8月27日739名の有資格者へ投票用紙一式を発送。投票は9月10日消印有効とした。

④ 9月14日科研費審査委員候補者選挙管理委員会にて開票

結果：有権者数739名
投票総数403通
有効通数367通
無効通数 36通

結果を理事長へ報告し，上位4名を審査委員候補者として学術会議へ推薦。

(3) 平成5年度科学研究費採択状況

細目「神経化学・神経薬理学」細目番号832の採択実態

① 応募総数については不明

② 採択総件数は69であった。
採択率20～30％とすると応募総数は230～350件と考えられる。

③ 採択実数

総合A	1件
一般A	1件
一般B	8件
一般C	33件
奨励A	23件
試験B	3件
合計	69件

(4) その他

- 応募総数の把握と分析調査をする
- 学術会議，文部省との連絡を密にし，審査委員候補者の推薦について更に実態を理解する
- 特定研究等を組み入れる努力をする
- 神経科学会，薬理学会等との連絡を密にする

6. 日本薬理学会との「科学研究費審査委員の推薦に関する申し合わせ書」の件

植村理事長より，既に前回の理事会で承認された同申し合わせ書の内容の件で，今回，日本学術会議から双方の学会に届いた平成6年度科研費審査委員候補者の推薦依頼に基づき現況に合わせて文章を1ヶ所修正してから日本薬理学会と正式に取り交わしたいとの提案がなされ，了承された。

7. 日本学術会議第16期会員推薦の件

植村理事長より，会員候補者として柿本泰男氏（愛媛大学医学部・教授）を，推薦人に植村慶一氏（慶應義塾大学医学部・教授）を，また推薦人予備者に加藤尚彦氏（横浜市立大学医学部・教授）を届け出ることが提案され了承された。

8. 第1回APSN国際会議事業報告の件

塚田裕三組織委員長より，昨年開催された同会議の最終報告が資料に基づいてなされた。

9. 第15回国際神経化学会（ISN '95）の件

栗山組織委員長より，先の国際対応委員会報告に続き，同会議の説明がなされた。

また，95年の日本神経化学会は京都府立医大の中嶋照夫教授を世話人代表として，第15回国際神経化学会とジョイントし会期を縮小して開催することで了承された。

10. 評議員推薦の件

下記の11名の評議員候補者を審査し，了承された（所属は申請当時のもの）。

- 安藤正人（藤田保健衛生大・医）
- 小倉明彦（三菱化成生命科学研究所）
- 藤田 忍（〃）
- 高橋正身（〃）
- 井原康夫（東京大学・医）
- 仲田義啓（広島大学・医）
- 森 則夫（福島県立医科大学）
- 大坪敦彦（愛知県コロニー）
- 井上和秀（国立衛生試験所）
- 松井英男（杏林大学・医）

• 白尾智明（群馬大学・医）

前回の理事会で承認されている8名を加えた計19名を，今回の評議員会・総会に提出し承認を得ることとした。

11. 評議員選任の件

今回の総会で任期満了になる現評議員173名について審査が行われ，全員が承認され，評議員会・総会に諮ることとした。

平成元年の改選時にも高齢（70歳以上）の評議員候補者の扱いについての討議がなされたが，評議員の定年規定を設けることについては今後も継続的に審議をしていくこととした。また，今回総会で承認されると平成9年総会終了迄の任期となるため，全評議員に対して評議員就任の諾否をとるとともに，就任を辞退された評議員については，次回の理事会で審議することとした。

尚，現在の会則では，評議員の定数の上限は200名となっている。本学会も会員数2000名を超える規模の学会に発展しており，これを機に評議員定数を変更してはどうかという提案がなされ，下記の会則改訂案が了承され，総会に諮ることとした。

会則（現行）

第21条2項

評議員の定数は50名乃至200名とする。

会則（改訂案）

第21条2項

評議員の定数は50名乃至250名とする。

12. 名誉会員推薦の件

柿本前理事長及び栗山前副理事長から推薦書の出ていた，塚田裕三氏（本学会監事，元理事長／慶應技術塾大学医学部名誉教授）の，名誉会員推戴について審議がなされ，承認され，総会へ推薦することとした。

13. 次期学会開催の件

武富　保次期世話人代表より，下記の報告があり了承された。

第37回日本神経化学会

期日：平成6年10月6日（木）
～8日（土）

会場：松本文化会館

14. その他

(1) 「新潟大学附置研究所の全国共同利用研究所への改組についての要望」について

佐武　明理事（新潟大学脳研究所長）より新潟大学脳研究所を全国共同利用研究所に改組する件について，早期実現を図るために，日本神経化学会として文部省学術国際局に要望書を提出して欲しいという要請があり，了承された。評議員会・総会で会員各位の同意を得て，文部省に要望書を提出することとした。

評議員会・総会議事録

日　時：平成5年10月26日(火)
　　14:00 ～15:00
場　所：千里ライフサイエンスセンター
議　事：

1. 理事長報告
　植村理事長より，理事長就任の挨拶及び最近の学会活動について包括的な報告がなされた。
2. 庶務報告
　加藤庶務担当理事より庶務報告が行われた。
3. 出版・広報報告
　畠中出版・広報担当理事より出版・広報関係の報告がなされた。
4. プログラム編成報告
　三木世話人代表より，プログラム編成経過が報告された。
5. 各委員会報告
　(1) 研究助成金等候補者選考委員会
　　三木委員長より報告がなされた。
　(2) 国際対応委員会
　　栗山委員長より報告がなされた。
　(3) 科研費調査委員会
　　竹田委員長より報告がなされた。
6. 平成5年度理事改選結果報告
　須田治彦選挙管理委員会委員長より理事改選選挙の結果報告がなされた。
7. 平成4年度決算の件
　宮武会計担当理事より平成4年度決算書が示された。引き続き大月監事より監査報告がなされ，了承された。
8. 平成6年度予算案の件
　宮武会計理事より平成6年度予算案が示され，了承された。
9. 評議員選任の件
　新評議員候補者として下記19名が示され，了承された。
　• 新評議員候補者名簿
　（受付順／任期：平成9年総会まで）
　大西　　博（大阪市立大・医・神経精神医学）
　加藤　　聖（金沢大・医・神経情報研）
　佐藤　公道（京都大・薬・薬理学）
　鈴木　龍雄（名古屋市立大・医・生化学）
　伊藤　仁一（名古屋市立大・医・生化学）
　柳澤　勝彦（東京医歯大・医・神経内科）
　樋口　宗史（大阪大・医・薬理学）
　郭　　哲輝（大阪大・医・薬理学）
　安藤　正人（藤田保衛大・医・生理学）
　小倉　明彦（三菱化成生命研・脳神経薬理）
　藤田　　忍（三菱化成生命研・脳神経化学）
　高橋　正身（三菱化成生命研・脳神経化学）
　井原　康夫（東京大・医・脳研）
　仲田　義啓（広島大・医・薬効解析科学）
　森　　則夫（福島県立医大・神経精神科）
　大平　敦彦（愛知県コロニー・発生学）
　井上　和秀（国立衛生試験所・薬理学）
　松井　英男（杏林大・医・生化学）
　白尾　智明（群馬大・医・行動分析学）
　（所属は申請当時のもの）

　尚，本総会で任期満了となる現評議員173名と，今回承認された19名の新評議員の合計192名の再任について了承された。

　また，理事会より評議員定数に伴う会則改訂案が提案された。この件では「評議員の定数を増やす前に，長期間学会に一度も参加しなかったり，高齢などの理由で学会参加やその他の学会活動が難しい評議員はご辞退いただき，学会を活性化するために若い方と代わるべきではないか」という意見が会員より寄せられたが，下記の改訂案が了承された。

会則（現行）
　第21条2項
　評議員の定数は50名乃至200名とする
会則（改訂案）
　第21条2項
　評議員の定数は50名乃至250名とする

10. 監事選任の件
　下記2名の候補者が示され，了承された。
　柿本　泰男（愛媛大学・医・神経精神医学）

黒川　正則（東京都精神医学総合研究所）
任期：平成9年10月（総会終了迄）

10. 名誉会員推薦の件

理事会より推薦のあった塚田裕三氏（本学会監事，元理事長／慶應義塾大学医学部名誉教授）について，了承された。

12. 次期学会世話人及び開催地の件

武富　保次期世話人代表より，下記の期日・場所が示された。

第37回日本神経化学会
（世話人代表：信州大学医学部心脈管病研究施設脂質生化学部門　武富保教授）
期日：平成6年10月6日(木)～8日(土)
会場：松本文化会館

11. その他

(1) 「日本神経化学会　文部省科学研究費審査委員候補者選挙に関する内規」改訂の件

科研費調査委員会からの要請により，「同　内規　付則2」を下記の通りに改訂する案が提案され了承された。

文部省科学研究費審査委員候補者選挙に関する内規（現行）

付則2

平成5年度・6年度審査員候補者の選挙に限り，選挙管理委員会は科学研究費調査委員会をもって構成する。

文部省科学研究費審査委員候補者選挙に関する内規（改訂案）

付則2

当分の間，選挙管理委員会は科学研究費調査委員会をもって構成する。

(2) 「新潟大学附置研究所の全国共同利用研究所への改組についての要望について」

佐武　明理事（新潟大学脳研究所長）より標記の件について，日本神経化学会に要請があり，了承された。

(3) 第38回日本神経化学会の開催について

第38回（平成7年度）は，第15回国際神経化学会とジョイントして京都（世話人代表　中嶋　照夫京都府立医大教授）を予定地とした。

〔注〕 報告内容については，理事会議事録参照のこと。

日本神経化学会
平成4年度決算
（平成4年1月1日～12月31日）

収入の部

勘定科目	平成4年度予算	平成4年度決算	備考
一般会費	11,704,000	12,277,750	
賛助会費	960,000	940,000	
団体会費	100,000	147,000	
大会論文集売上代	400,000	390,000	
国際交流積立金取崩収入	1,000,000	1,000,000	
雑収入	1,500,000	2,061,249	英文抄録掲載料含む
小計	15,664,000	16,815,999	
前年度繰越金	18,929,032	20,981,716	
合計	34,593,032	37,797,715	

支出の部

勘定科目	平成4年度予算	平成4年度決算	備考
大会運営補助費	500,000	500,000	旧 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ編集費
プログラム印刷費	600,000	509,850	
プログラム発送費	600,000	661,350	
大会論文集印刷費	3,000,000	2,819,110	
大会論文集発送費	450,000	399,603	
事務局報印刷費	900,000	1,482,199	
事務局報発送費	200,000	176,014	
国際交流費	1,000,000	565,850	
国際交流積立金	1,000,000	1,000,000	
通信連絡費	900,000	1,256,552	演題募集，会費請求
会議費	1,000,000	1,271,659	旅費，室料等
アルバイト費	0	0	
印刷費	600,000	1,051,957	
事務用品費	50,000	700	
雑費	900,000	915,000	英文抄録校閲料含む
委託費	4,700,000	5,226,622	学会事務ｾﾝﾀｰ委託費
予備費	500,000	0	
小計	16,900,000	17,836,466	
次年度繰越金	17,693,032	19,961,249	
合計	34,593,032	37,797,715	

日本神経化学会
平成6年度予算
（平成6年1月1日～12月31日）

収入の部

勘定科目	平成5年度予算	平成6年度予算案	備考
一般会費	12,320,000	12,628,000	2050名× 7000 円× 0.88
賛助会費	940,000	940,000	
団体会費	100,000	100,000	
大会論文集売上代	400,000	400,000	
英文抄録掲載料	750,000	750,000	
雑収入	600,000	500,000	利子及び雑収入
小計	15,110,000	15,318,000	
前年度繰越金	18,975,032	16,521,032	H.5 決算見込額
合計	34,085,032	31,839,032	

支出の部

勘定科目	平成5年度予算	平成6年度予算案	備考
大会運営補助費	500,000	500,000	
プログラム印刷費	600,000	700,000	
プログラム発送費	650,000	650,000	
大会論文集印刷費	3,000,000	3,200,000	
大会論文集発送費	450,000	450,000	
英文抄録校閲料	750,000	750,000	
事務局報印刷費	900,000	1,200,000	
事務局報発送費	200,000	200,000	
国際交流費	1,000,000	500,000	
国際交流積立金	1,000,000	0	
通信連絡費	1,100,000	1,200,000	演題募集，会費請求
会議費	1,100,000	1,100,000	旅費，室料等
印刷費	700,000	1,200,000	
事務用品費	50,000	50,000	
雑費	250,000	250,000	
委託費	5,000,000	5,300,000	学会事務ｾﾝﾀｰ委託費
予備費	500,000	500,000	
小計	17,750,000	17,750,000	
次年度繰越金	16,335,032	14,089,032	
合計	34,085,032	31,839,032	

第36回　日本神経化学会
プログラム

【世話人代表】　三木直正（大阪大学医学部第一薬理学講座）

【日　　時】　平成５年10月25日（月）・26日（火）・27日（水）

【会　　場】　千里ライフサイエンスセンタービル
大阪府豊中市新千里東町１－４－２
電話 06－873－2010

特 別 講 演

日　時：平成５年10月26日（火）15：15～17：30
場・所：Ａ会場（５Ｆ　ライフホール）

Ⅰ. Prof. Eric A. Barnard (Molecular Neurobiology Unit. Royal Free Hospital, School of Med.)
Structural determinants and evolutionary variation in the transmitter-gated ion channels.
座 長　芳賀達也（東京大学医学部）

Ⅱ. Associate Prof. Jay Baraban (Dept. of Neurosci., Johns Hopkins Univ. School of Med.)
Synaptic Activation of Second Messenger Pathways.
座 長　David Saffen（東京大学医学部）

Ⅲ. 吉沢　透 教授（大阪産業大学工学部）
色感覚のレセプター　— 構造と機能と進化 —
座 長　三木直正（大阪大学医学部）

注）ビデオ中継をロビーとＣ会場でも行います。

日程表および座長一覧表

10月25日（月）

	A会場 （5Fライフホール）	B会場 （5Fサイエンスホール）	C会場 （5F 501～3会議室）	D会場ポスター （6F展示場）
	受　付　開　始			
9：00	ミニシンポジウム1	ミニシンポジウム2	一般演題	ポスター貼布(終日)
20	（演題No.1～6）	（演題No.19～24）	（演題No.37～40）	（演題No.132～181）
40	「神経栄養因子」	「精神神経疾患と遺伝子発現」	「老化・アルツハイマー」	
10：00	座長　畠中　寛	座長　山上　栄	座長　宮武　正 武田　雅俊	
20	高坂　新一	辻　省次	一般演題	
40			（演題No.41～45）	
11：00			「老化・アルツハイマー」	討　論
20			座長　井原　康夫 融　道夫	（奇数番号）
40				
12：00				
	昼　食			
40				
13：00				討　論
20				（偶数番号）
40				
14：00	一般演題	一般演題	一般演題	
20	（演題No.7～12）	（演題No.25～No.30）	（演題No.46～No.51）	
40	「分化・発育」	「脳障害・虚血・細胞死」	「神経伝達機構」	
15：00	座長　吉川　和明	座長　山本　秀幸	座長　熊倉鴻之助	
20	仙波りつ子	山本　昌泰	山内　卓	
40				
16：00	一般演題	一般演題	一般演題	
20	（演題No.13～18）	（演題No.31～36）	（演題No.52～57）	
40	「遺伝子発現」	「脳障害・虚血・細胞死」	「神経栄養因子」	
17：00	座長　米田　幸雄	座長　野村　靖幸	座長　加藤　泰治	ポスター撤去
20	大杉　武	加藤　聖	樋口　宗史	
40				
18：00				
20				
40				
19：00				
20：00				

10月26日（火）

	A会場（5Fライフホール）	B会場（5Fサイエンスホール）	C会場（5F 501～3会議室）	D会場ポスター（6F展示場）
	受　付　開　始			
9：00	ミニシンポジウム3	ミニシンポジウム4	一般演題	ポスター貼布（終日）
20	（演題No.58～62）	（演題No.63～67）	（演題No.68～71）	（演題No.182～230）
40	「βアミロイド蛋白	「神経分化と	「免疫組織化学」	
10：00	と細胞障害」	遺伝子発現」	座長　日高　弘義 小鹿　幸生	
20	座長　西村　健	座長　池中　一裕	一般演題	
40	田平　武	岡野　栄之	（演題No.72～75）	
11：00			「免　疫」	討　論
20			座長　錫村　明生 阿部　敏明	（奇数番号）
40				
12：00				
	昼　食			
40				
13：00				討　論
20				（偶数番号）
40				
14：00				
20	評議員会			
40	総　会			
15：00				
20				
40	特別講演Ⅰ			
16：00	Eric A. Barnard 座長　芳賀　達也			
20	特別講演Ⅱ			
40	Jay Baraban 座長　D. Saffen			
17：00	特別講演Ⅲ			ポスター撤去
20	吉沢　透			
40	座長　三木　直正			
18：00				
20		懇親会		
40				
19：00				
20：00		20:30		

	10月27日（水）			
	A会場 （5Fライフホール）	B会場 （5Fサイエンスホール）	C会場 （5F 501～3会議室）	D会場ポスター （6F展示場）
	受　付　開　始			
9：00	ミニシンポジウム5	ミニシンポジウム6	一般演題	ポスター貼布（終日）
20	（演題No.76～81）	（演題No.94～99）	（演題No.112～115）	（演題No.231～268）
40	「脳障害とアポトーシス」	「ドーパミン神経伝達の	「神経情報伝達」	
10：00		薬物による調節」	座長　佐藤　公道 加藤　尚彦	
20	座長　早川　徹	座長　馬場　明道	一般演題	
40	桐野　高明	土肥　敏博	（演題No.116～119）	
11：00			「神経情報伝達・情報交換機構」	討　論
20			座長　津田　正明 竹内　宏	（奇数番号）
40				
12：00				
40				
13：00				討　論
20				（偶数番号）
40				
14：00	一般演題	一般演題	一般演題	
20	（演題No.82～87）	（演題No.100～105）	（演題No.120～125）	
40	「神経伝達機構」	「細胞骨格・	「行動・代謝・	
15：00		カルシウム」	疾患モデル」	
20	座長　宮本　英七	座長　祖父江憲治	座長　福井　裕行	
40	栗山　欣弥	白尾　智明	藤沢　仁	
16：00	一般演題	一般演題	一般演題	
20	（演題No.88～93）	（演題No.106～111）	（演題No.126～131）	
40	「神経伝達機構」	「細胞運動・学習・	「疾患モデル・	
17：00		膜輸送」	神経・精神疾患」	ポスター撤去
20	座長　崎村　建司	座長　黒田洋一郎	座長　三須　良美	
40	高橋　正身	加藤　兼房	大西　博	
18：00				
20				
40				
19：00				
20：00				

ポスター発表展示位置および討論日程

パネル番号	演題番号　9月25日	演題番号　9月26日	演題番号　9月27日
1	132 脳障害・虚血・細胞死	182 神経栄養因子	231 老化・アルツハイマー
2	133	183	232
3	134	184	233
4	135	185	234
5	136	186	235
6	137	187	236
7	138	188	237
8	139	189	238
9	140	190	239
10	141	191	240
11	142	192	241
12	143	193 再生・移植	242
13	144	194	243
14	145	195 細胞運動・軸索輸送	244
15	146	196	245
16	147	197 神経伝達機構	246 神経・精神疾患
17	148	198	247
18	149 学習・記憶	199	248
19	150	200	249
20	151	201	250
21	152 疾患モデル	202	251
22	153	203	252
23	154	204	253
24	155	205	254
25	156	206	255
26	157	207	256
27	158	208	257 免疫組織化学
28	159	209	258
29	160	210	259
30	161	211	260
31	162	212	261
32	163 細胞骨格・カルシウム	213	262 遺伝子発現
33	164	214	263
34	165	215	264
35	166	216 情報交換機構	265
36	167 分化・発育	217	266
37	168	218	267
38	169	219	268 遺伝子操作
39	170	220	
40	171	221	
41	172	222	
42	173 代謝	223	
43	174	224	
44	175	225	
45	176	226 行動・睡眠・リズム	
46	177 膜輸送	227	
47	178	228	
48	179	229	
49	180	230	
50	181		

☆展示の行われるD会場（6F）はA～Eの5ブロックに分かれております（38頁別図参照）。
1つのブロックは10枚の展示パネルから成っておりますので、上の表の指示に従って、所定の位置にお貼り下さい。

貼付時間：毎日 午前9時
撤去時間：毎日 午後5時

☆各演題の討論時間（60分間）は奇数番号11：00～12：00、偶数番号12：40～13：40です。
発表者は指定の討論時間中は発表演題の前で待機して下さい。

口　　演

第1日　10月25日(月)

A会場

ミニシンポジウム1

9：00～11：00（神経栄養因子）

1．神経成長因子反応エレメント結合蛋白質の性質と組織分布
……樋口宗史、金　哲熙、三木直正
（大阪大・医・第一薬理）

2．NGFとEGFのras活性化シグナル伝達機構の解析
……橋本裕子、服部成介、中村　俊
（国立精神神経セ・神経研・診断研究）

3．前脳基底野コリン作動性ニューロンのNGFとBDNF応答性には空間的相違がある
……野々村健、小島正己、西尾チカ、畠中　寛
（大阪大・蛋白質研・生合成）

4．中枢GABAニューロン様細胞株の細胞死
……久永欣哉[1]、呉　繁夫[2]、池田康夫[1]、高坂新一[1]
（国立精神神経セ・神経研・代謝[1]、東北大・医・病態代謝[2]）

5．培養グリア細胞と神経細胞からのサイトカイン受容体の発現
……伊藤康宏[1]、澤田　誠[1]、錫村明生[2]、丸野内棣[1]
（藤田保衛大・医・総医研・応用細胞[1]、神経内[2]）

6．Neuron-glia interactionと成長抑制因子（GIF）
……内田洋子[1]、大塚成人[2]、井原康夫[3]
（都老人研・神経病理[1]、東大・医・病理[2]、脳研・病理[3]）

11：00～12：00　ポスター討論（奇数番号）　D会場（6F展示場）
12：00～12：40　――― 昼　　食 ―――
12：40～13：40　ポスター討論（偶数番号）　D会場（6F展示場）

一般口演

13：40～15：40（分化・発育）

7．c-MYCタンパク質によるイノシトールリン脂質情報伝達系の制御の可能性
……堀越哲郎[1]、高橋　恵[2]、豊島　聰[3]、吉岡　亨[4]
（東海大・開発工・生物工[1]、横浜市大・医・精神[2]、JT基礎研[3]、早大・人間科学[4]）

8．マウス脳核画分における神経分化特異的蛋白質necdinの性質
……丸山悦子、吉川和明
（都神経研・分子神経生物）

9．PLP遺伝子産物のオリゴデンドロサイト分化促進因子としての機能解析
……山田真久[1,3]、中尾純治[2]、鹿川哲史[3]、御子柴克彦[4]、池中一裕[3]
（大阪大・蛋白質研[1]、慶應義塾大・医[2]、岡崎生理研[3]、東大・医科研[4]）

10. グリア分化因子としてのミエリンプロテオリピド蛋白質の機能解析
－トランスジェニックマウスの系を用いて－
…… 鹿川哲史[1]、池中一裕[1]、井上芳郎[2]、御子柴克彦[3]
（岡崎生理研[1]、北海道大・医・第一解剖[2]、東京大・医科研[3]）
11. バフィロマイシンA１によるPC12細胞の突起伸展機構の解析
…… 割谷孝貴、能登政彦、木下邦則、大熊勝治
（金沢大・薬・生化）
12. ラット胎仔における脳可溶性コンドロイチン硫酸プロテオグリカンの局在とその機能
…… 仙波りつ子[1]、渡辺英治[1]、前田信明[2]、大平敦彦[1]
（愛知県コロニー・研[1]、基礎生物学[2]）

15：40～17：40（遺伝子発現）

13. 橋由来拡散物質による大脳皮質軸索での側枝形成の誘導
…… 佐藤　真[1]、Dennis D.M, O'Leary [2]
（大阪大・医・第二解剖[1]、The Salk Institute、USA[2]）
14. 培養交感神経細胞の神経伝達物質選択に対するレチノイン酸の作用
…… 小林三和子、松岡一郎、栗原堅三
（北海道大・薬・薬剤）
15. ヒト赤芽球細胞におけるIsoaspartyl Protein Carboxyl Methyltransferase cDNAの配列決定
…… 武田良平[1]、溝渕睦彦[1]、村尾孝児[2]、佐藤　誠[2]、柿本泰男[1]
（愛媛大・医・神経精神[1]、香川医大・第一内科[2]）
16. TRE配列に対する親和力の異なる脳内転写制御因子AP１の検出
…… 米田幸雄、荻田喜代一
（摂南大・薬・薬理）
17. 脳内転写制御因子Myc結合活性の調節
…… 荻田喜代一、米田幸雄
（摂南大・薬・薬理）
18. マウス小脳に存在するモルヒネ感受性１本鎖CRE結合蛋白質（ssCRE-BP）の性質と精製
…… 大杉　武、青木義矢、池本光志、田中秀和、王　小兵、三木直正
（大阪大・医・第一薬理）

B会場

ミニシンポジウム２

9：00～11：00（精神神経疾患と遺伝子発現）

19. E１マウス脳におけるFosと異常可塑性の関連性について
…… 勝元栄一、横谷　昇、撫井弘二、大西　博、山上　榮
（大阪市大・医・神経精神）
20. ALDH２のgenotypeの簡便な決定とアルコール依存症の特徴について
…… 中村和彦[1]、岩橋和彦[1]、松尾義則[2]、洲脇　寛[1]、市川佳幸[2]、細川　清[3]、市川正浩[4]、三船和史[5]
（香川医大・精神神経[1]、生化学[2]、附属病院[3]、三光病院[4]、三船病院[5]）
21. ドーパミントランスポーター遺伝子多型と精神神経疾患
…… 佐野　輝[1]、近藤啓次[1]、柿本泰男[1]、近藤郁子[2]、服部優子[3]、水野美邦[3]
（愛媛大・医・神経精神[1]、衛生[2]、順天堂大・医・神経内科[3]）

22. パーキンソン病態モデルラット線条体シナプス膜におけるドパミンアゴニストのG蛋白質活性化の増強作用とドパミン受容体遺伝子発現
……井上敦子[1,2]、仲田義啓[2]、植田弘師[1]、三須良実[1]
（横浜市大・医・薬理[1]、広島大・医・総合薬学科・薬効解析科学[2]）
23. 運動ニューロン疾患におけるモーター蛋白質の変動
…… 豊島　至、小松眞史、正宗　研
（秋田大・医・第一内科）
24. ヒトリンパ球におけるドーパミンD_3、D_5受容体の発現と新しいD_3異型体の転写
…… 永井義隆、佐伯良修、上野　聡
（大阪大・医・神経内科）

11：00～12：00　ポスター討論（奇数番号）　D会場（6F展示場）
12：00～12：40　――― 昼　　食 ―――
12：40～13：40　ポスター討論（偶数番号）　D会場（6F展示場）

一般口演

13：40～15：40（脳障害・虚血・細胞死）
25. 短時間脳虚血によるCa^{2+}／カルモデュリン依存性プロテインキナーゼⅡの減少
…… 山本秀幸[1,2]、福永浩司[1]、Kevin Lee[3]、宮本英七[1]、Thomas R.Soderling[2]
（熊本大・医・第一薬理[1]、オレゴン医大[2]、ヴァージニア大[3]）
26. ラット中大脳動脈閉塞モデルにおけるbFGF mRNAと蛋白発現の経時的変化の検討
…… 大槻秀夫[1]、山田和雄[1]、藤田真幸[2]、甲村英二[1]、湯口貴導[1]、種子田護[1]、早川　徹[1]
（大阪大・医・脳神経外科[1]、病理病態[2]）
27. 砂ネズミ脳虚血におけるRyanodine受容体の変化に関する研究
…… 野崎博之[1]、田中耕太郎[1]、五味愼太郎[2]、美原　盤[3]、白井俊孝[1]、野川　茂[1]、永田栄一郎[1]、福内靖男[1]、桑島吾郎[4]、御子柴克彦[5]
（慶應義塾大・医・神経内科[1]、大田原赤十字病院・神経内科[2]、脳血管研・美原記念病院[3]、シオノギ研[4]、東京大・医科研・化学[5]）
28. 分化ヒトニューロブラストーマにおけるcolchicine誘発神経細胞死
…… 八木－中川勇三
（雪印・生物化学研・神経化学）
29. ラット海馬神経細胞培養系におけるカイニン酸神経細胞毒性
…… 山口時男、大野和茂、小原厚行
（山之内製薬㈱・第一創薬研）
30. グルタミン酸誘発神経細胞死とphospholipase C-delta免疫活性の増大
…… 下濱　俊[1]、田村　豊[2]、赤池昭紀[2]、松島秀行[1]、竹縄忠臣[3]、本間　好[4]、木村　淳[1]
（京都大・医・神経内科[1]、福山大・薬・神経薬理[2]、東京大・医科研・癌生物[3]、都老人研・生体情報[4]）

15：40～17：40（脳障害・虚血・細胞死）
31. 酸化的ストレスと神経細胞死　－C6グリオーマ細胞におけるグルタミン酸毒性を中心として－
…… 馬渡一浩[1]、安井裕子[2]、石田外樹[2]、加藤　聖[2]
（金沢大・医療短大・衛生技術[1]、金沢大・医・神経情報研伝達[2]）

32. 脳NOシンターゼにおける〔3H〕N^G-Nitro-L-Arginine結合の性質
……来山義則、北村佳久、桐山賀充、野村靖幸
（北海道大・薬・薬効）

33. ラット脳グリア細胞におけるNOシンターゼ誘導機構
……北村佳久[1]、来山義則[1]、桐山賀充[1]、江角浩安[2]、野村靖幸[1]
（北海道大・薬・薬効[1]、国立がんセ[2]）

34. 生後ラット中枢コリン作動性ニューロンのプログラム細胞死
……中村桃子、西尾チカ、野々村健、畠中　寛
（大阪大・蛋白質研・生合成）

35. Caイオノフォアによる中枢神経細胞のアポトーシス
……武井延之、遠藤泰久
（京都工繊大・応用生物）

36. 抗Fas抗体による培養グリオーマ細胞のapoptosis誘導
……白石哲也、中川摂子、木原俊壱、田渕和雄
（佐賀医大・脳神経外科）

C会場

一般口演

9：00～10：20（老化・アルツハイマー）

37. アルツハイマー病脳におけるクラスリンの分布異常
……中村　祐[1・2]、武田雅俊[1]、吉見健二[3]、服部英幸[4]、関　浅男[2]、大嶋正人[2]、播口之朗[1]、橋本重夫[5]、北嶋省吾[2]、西村　健[1]
（大阪大・医・精神[1]、日生病院[2]、三共㈱[3]、美原病院[4]、近畿大・医・第二病理[5]）

38. シナプスにおけるアミロイド前駆体蛋白の局在に関する検討
……下川雅丈[1]、柳澤勝彦[1]、西江　弘[2]、宮武　正[1]
（東京医科歯科大・医・神経内科[1]、順天堂大・医・第二生理[2]）

39. アミロイド前駆体蛋白の蓄積に関連する蛋白の検索
－イボテン酸によるラット海馬破壊部位において－
…新川久義[1・2]、武田雅俊[1]、中村　祐[1・3]、迫田慎一郎[1]、播口之朗[1]、北嶋省吾[3]、西村　健[1]
（大阪大・医・精神[1]、狭山病院[2]、日生病院[3]）

40. βアミロイドペプチドの二次構造とミトコンドリア機能低下活性との関係
……亀之園正弘[1]、桜庭祐子[1]、山田紀子[1]、堤　信也[2]、木下　武[2]、金子　勲[1]
（三共㈱バイオサイエンス研[1]、分析代謝研[2]）

11：20～12：00（老化・アルツハイマー）

41. PHF-tauおよび胎児型tauの*in vitro*微小管重合促進能
……吉田裕孝、井原康夫
（東京大・医・脳研病理）

42. タウは生体内でproline-directed protein kinase（PDPK）の基質である
……渡辺　淳[1・2]、長谷川成人[1]、鈴木政美[3]、瀧尾擴士[4]、森島真帆[1]、千谷晃一[3]、新井孝夫[2]、井原康夫[1]
（東京大・医・脳研病理[1]、東京理科大・応用生物[2]、藤田保衛大・総医研[3]、理化学研・生体分子解析[4]）

43. 微小管結合タンパク質タウの最C末端領域の多様性　－mRNAレベルでの検討－
……沢　明[1・2]、小山文隆[1]、松下正明[2]、千谷晃一[3]、井原康夫[1]
（東京大・医・脳研病理[1]、精神[2]、藤田保健衛大・総医研[3]）

44. ラット神経成長抑制因子（GIF）の抗体作製と実験的頭部外傷ラットにおける発現動態について
……保住　功[1]、犬塚　貴[1]、平岩雅男[2]、内田洋子[3]、姉崎利治[1]、石黒英明[1]、小林　央[4]、宇田　裕[2]、宮武　正[4]、辻　省次[1]
（新潟大・脳研・神経内科[1]、新潟薬大・衛生化学[2]、都老人研・神経病理[3]、東京医科歯科大・医・神経内科[4]）

45. 線維芽細胞増殖因子による学習記憶の促進効果と老化による脳の記憶力低下の防止
……大村　裕[1]、今井秀樹[1]、佐々木和男[2]、李　愛軍[3]、木村　宏[4]、遠山育夫[4]、花井一光[4]、矢内原昇[5]、北村佳久[6]、野村靖幸[6]
（日本臓器製薬・生物活性科学研[1]、富山大・工[2]、九州大・医[3]、滋賀医大[4]、静岡大・薬[5]、北海道大・薬[6]）

11：00～12：00　ポスター討論（奇数番号）　D会場（6F展示場）
12：00～12：40　――― 昼　　食 ―――
12：40～13：40　ポスター討論（偶数番号）　D会場（6F展示場）

13：40～15：40（神経伝達機構）

46. 断頭後の脳CaMキナーゼⅡαサブユニットのトランスロケーション（Ⅱ）
……鈴木龍雄、野路久仁子、田中　亮
（名古屋市大・医・第一生化）

47. 開口放出のツーステップ・モデルにおけるミオシン軽鎖キナーゼの役割
……笹木君仁[1]、今泉美佳[1]、櫻井　隆[2]、松田　譲[3]、野々村禎昭[2]、熊倉鴻之助[1]
（上智大・生命研・神経化学[1]、東京大・医・第一薬理[2]、協和発酵・東京研[3]）

48. ラット大脳の発達過程におけるカルモデュリン依存性プロテインキナーゼⅡの基質タンパク質の動態
……杉浦弘子[1]、山内　卓[2]
（都神経研[1]、徳島大・薬[2]）

49. ラット脳内ヒスタミン神経系に共存するGABAの遊離
……山本由美子[1]、望月貴年[2]、望月　薫[2]、堀井　新[3]、東　　均[4]、大和谷厚[1]
（大阪大・医・分子生理化学[1]、第二薬理[2]、耳鼻科[3]、精神科[4]）

50. 脳シナプス前末端に存在するrab3A、SNAP-25、VAMP-2およびsyntaxins複合体
……堀川　洋、西須英雄、石塚　徹、関根陽子、阿部輝雄
（新潟大・脳研）

51. 中枢神経系における神経伝達物質の遊離とP－タイプカルシウムチャンネルの連関
……木村真奈美、花田敬久、加賀谷孝樹、山西嘉晴、寺本哲之、澤田光平、片山幸一、西沢幸夫
（エーザイ㈱筑波研）

15：40～17：40（神経栄養因子）

52. グリオスタチンの神経栄養因子活性とアストロサイト分化誘導因子活性
……植木孝俊、中西圭子、大河内由香、浅井清文、加藤泰治
（名古屋市大・医・分子医学研・生体制御）

53. PC12h-R細胞は上皮増殖因子（EGF）に応答して神経細胞様に分化する
……山田雅司、池内俊彦、畠中　寛
（大阪大・蛋白質研・生合成）

54. ニューロン細胞膜上のプラスミノーゲン結合蛋白の同定
……中嶋一行[1]、浜之上誠[1]、竹本なぎさ[1]、加藤兼房[2]、高坂新一[1]
（国立精神神経セ・神経研・代謝[1]、愛知県コロニー・発障研・生化[2]）

55. 加齢によるラット組織内HCNPとその類似体の変動
…… 小鹿幸生、松川則之、大塚康史、三竹重久、片田栄一
（名古屋市大・医・第二内科）

56. HCNP Processing Enzymeの物理的、化学的性質
…… 大塚康史、小鹿幸生、三竹重久、片田栄一、松川則之
（名古屋市大・医・第二内科）

57. 神経突起伸展因子受容体の構造と性質について
…… 平　英一、高羽夏樹、郭　哲輝、三木直正
（大阪大・医・第一薬理）

口　　演

第2日　10月26日（火）

A会場

ミニシンポジウム3

9：00～11：00（βアミロイド蛋白と細胞障害）

58. β－アミロイドペプチド（25－35）によるアポトーシス様の神経細胞死とIGF－Ⅱまたは血清添加による抑制
……高寺恒雄、毛利哲郎
（北陸大・薬・創薬研）

59. 培養神経細胞におけるβ－アミロイド蛋白による神経細胞死
……上田恵一、福井義弘、蔭山宏康
（塩野義製薬研）

60. βアミロイドペプチドによるミトコンドリア機能（MTT還元能）の特異的低下作用について
……金子　勲、亀之園正弘、桜庭祐子、山田紀子
（三共㈱バイオサイエンス研）

61. 神経細胞株におけるアミロイドβ蛋白の生成について　－APP遺伝子導入による検討－
……荒木　亘、国下龍英、池田幸弥、高橋慶吉、田平　武
（国立精神神経セ・神経研・疾病）

62. アミロイド蛋白脳室内投与によるアルツハイマー型老年期痴呆症モデル動物の作製
－学習記憶およびコリン作動性神経に対する影響－
……新田淳美、伊東亜紀雄、鍋島俊隆
（名古屋大・医・医療薬学・薬剤）

11：00～12：00　ポスター討論（奇数番号）　D会場（6F展示場）
12：00～12：40　―― 昼　　食 ――
12：40～13：40　ポスター討論（偶数番号）　D会場（6F展示場）
14：00～15：00　―― 評議員会・総会 ――

〔議題〕
1．理事長報告
2．庶務報告
3．プログラム編成報告
4．各委員会報告
5．平成5年度理事改選結果報告
6．平成4年度決算の件
7．平成6年度予算の件
8．名誉会員推薦の件
9．評議員選任の件
10．監事選任の件
11．次期学会世話人及び開催地の件
12．その他

15：20～17：35　特別講演　Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（3ページ参照して下さい）
18：00～20：30　懇親会（B会場）

B会場

ミニシンポジウム4

9：00～11：00（神経分化と遺伝子）

63. マウス神経系発生過程における核蛋白質NECDIN mRNAの発現
……高城啓一、吉川和明
（都神経研・分子神経生物）

64. 小脳の形成過程で発現調節されるタンパク質nuclein（V－2）の組織内局在と発現様式
……松岡邦枝[1]、篠田友孝[1]、田岡万悟[2]、山国　徹[2]、宋　時栄[2]、儀辺俊明[1]
（都立大・理・化[1]、三菱化成・生命研[2]）

65. 神経分化に関与する新規因子TA20のcDNAクローニングおよびその機能の検討
……東田千尋、東田道久、野村靖幸
（北海道大学・薬・薬効）

66. 大脳新皮質マージナルゾーンに対するモノクローン抗体を用いた皮質発生の解析
……石井加代子、植村慶一
（慶應義塾大・医・生理）

67. 神経細胞の分化と軸索走行を制御するEGFモチーフを持つ新しい分泌性因子・strawberry遺伝子産物
……岡野栄之、沢本和延、吉川真悟、御子柴克彦
（東京大・医科学研・化学）

11：00～12：00　ポスター討論（奇数番号）　D会場（6F展示場）
12：00～12：40　―― 昼　　食 ――
12：40～13：40　ポスター討論（偶数番号）　D会場（6F展示場）
14：00～15：00　―― 評議員会・総会（A会場） ――
15：20～17：35　特別講演 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（A会場）
18：00～20：30　―― 懇親会 ――

C会場

一般口演

9：00～10：20（免疫組織化学）

68. ニューロカルシン（Neurocalcin）－神経系に特異的分布を示すカルシウム結合蛋白質－
……岡崎勝男[1]、井上繁雄[1]、飯野　哲[2]、小林　繁[2]、日高弘義[1]
（名古屋大・医・薬理[1]、第一解剖[2]）

69. 成体ラット脳における主要ガングリオシドの免疫組織化学的局在
……小谷政晴[1]、川島育夫[1]、小沢秀樹[1]、小倉　潔[1]、寺島俊雄[2]、田井　直[1]
（都臨床研・腫瘍免疫[1]、解剖[2]）

70. ラット神経系の抗HCNP抗体による免疫組織化学（第二報）
……三竹重久[1]、片田栄一[1]、松川則之[1]、大塚康史[1]、小鹿幸生[1]、藤森　修[2]
（名古屋市大・医・第二内科[1]、第二解剖[2]）

71. 抗HCNP抗体による11日齢Wistar系ラット一般臓器の免疫組織化学的検討
……片田栄一[1]、三竹重久[1]、松川則之[1]、大塚康史[1]、小鹿幸生[1]、藤森　修[2]
（名古屋市大・医・第二内科[1]、第二解剖[2]）

10：20～11：40（免疫）

72. IL－4によるミクログリアの増殖、活性化とMHC抗原誘導の抑制
……錫村明生[1]、澤田　誠[2]、丸野内棣[2]、山本纐子[1]
（藤田保衛大・神経内科[1]、総医研・応用細胞[2]）

73. 脳内でのCD14の役割とミクログリアの休止化にともなう発現の変動
……澤田　誠[1]、錫村明生[2]、丸野内棣[1]
（藤田保衛大・総医研・応用細胞[1]、神経内科[2]）

74. Guillain - Barré症候群を惹起する細菌のリポ多糖はGM1ガングリオシド様構造を有する
……結城伸泰[1]、宮武　正[1]、瀧　孝雄[2]、飯田静夫[2]、笠間健嗣[3]、高橋正樹[4]、斉藤香彦[4]、稲垣冬彦[5]
（東京医科歯科大・医・神経内科[1]、分子医化学[2]、機器分析[3]、都立衛生研・微生物[4]、東京都臨床医学総合研[5]）

75. ヒト末梢神経ガングリオシドと抗ガングリオシド抗体の反応性
……太田雪子[1]、後藤希代子[1]、黒谷篤之[1]、阿部敏明[1]、長嶋和郎[2]
（帝京大・医・小児[1]、北海道大・医・病理[2]）

11：00～12：00　ポスター討論（奇数番号）　D会場（6F展示場）
12：00～12：40　―― 昼　　食 ――
12：40～13：40　ポスター討論（偶数番号）　D会場（6F展示場）
14：00～15：00　―― 評議員会・総会（A会場） ――
15：20～17：35　特別講演 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（A会場）
18：00～20：30　―― 懇親会 ――

口　　演

第3日　10月27日（水）

A会場

ミニシンポジウム5

9：00～11：00（脳障害とアポトーシス）

76. γ線照射によるマウス小脳原基のアポトーシスと組織トランスグルタミナーゼの変動
……田丸政男[1]、井上　稔[2]、新井正一[3]、安藤正人[4]、永田　豊[4]
（鈴鹿医療科学技術大・医用情報[1]、放射線技術[3]、名古屋大・環研[2]、藤田保衛大・医・生理[4]）

77. 神経成長因子（NGF）によるetoposide誘発PC12細胞死の抑制
……中島光業[1]、柏木久美子[1]、古川昭栄[2]、林　恭三[2]、川島拓司[1]、林要喜知[1]
（森永乳業・生科研[1]、岐阜薬大・分子生物[2]）

78. 小脳granule細胞死を抑える脱分極シグナルによるチロシンリン酸化
……小池達郎、田中秀逸
（佐賀医大・化学）

79. 高酸素負荷による培養中枢ニューロン死の生化学的および形態学的性質について
……榎戸　靖[1]、久保武一[1]、市川真澄[2]、畠中　寛[1]
（大阪大・蛋白質研・生合成[1]、都神経研・解剖発生[2]）

80. 遅発性神経細胞壊死の病態生理にApoptosisが関与
－砂ネズミ一過性前脳虚血後の海馬でのDNA fragmentationの観察－
……松本昌泰[1,2]、岡本昌也[1]、田口明彦[1]、大槻俊輔[1]、北川一夫[1]、小川　智[1]、上田周一[2]、御子柴克彦[3]、柳原武彦[2]、鎌田武信[1]
（大阪大・医・第一内科[1]、神経内科[2]、東大・医科研[3]）

81. 脳虚血によるスナネズミ脳内転写制御因子の変動
……米田幸雄[1]、荻田喜代一[1]、三谷　章[2]、片岡喜由[2]
（摂南大・薬・薬理[1]、愛媛大・医・第一生理[2]）

11：00～12：00　ポスター討論（奇数番号）　D会場（6F展示場）
12：00～12：40　―― 昼　　食 ――
12：40～13：40　ポスター討論（偶数番号）　D会場（6F展示場）

一般口演

13：40～15：40（神経伝達機構）

82. Pertussis toxin処理による、PC12細胞からのドパミン放出過程に於けるCa^{2+}感受性の亢進
……小泉修一、井上和秀
（国立衛生試験所・薬理）

83. ジギトニンで透過性にした副腎クロマフィン細胞からの開口分泌におけるカルモデュリンの関与
……松田守弘、岡部登志男、杉本　央
（大阪大・微生物病研・抗酸菌生理）

84. シンタキシンのアイソフォームの性質
……　根本康夫[1]、伊藤朋子[1]、笠井陽子[1]、西木禎一[2]、小崎俊司[2]、高橋正身[1]
（三菱化成生命科学研[1]、大阪府大・農[2]）

85. 神経系特異的カルモジュリン結合蛋白質NAP－22のシナプス前部への局在
……　前川昌平[1・2]、中村　俊[2]
（東京大・理・生化[1]、国立精神神経セ・神経・診断[2]）

86. リチウムのラット脳内リン代謝産物に及ぼす影響－高分解能^{31}P-NMRスペクトロスコピーを用いた研究－
……　今福　淳[1]、Pettegrew J.W.[2]
（聖マリアンナ医大・神経精神[1]、ピッツバーグ大・精神[2]）

87. ヒト死後脳における内在性遊離型D－アスパラギン酸とD－セリンの発達及び加齢に伴う変化
……　橋本篤司[1・2]、西川　徹[2]、熊代　新[2]、岡　高恵[2]、水戸　敬[2]、高嶋幸男[2]、高橋清久[2]
（新技術事業団[1]、国立精神神経セ神経研・疾病[2]）

15：40～17：40（神経伝達機構）

88. 培養アストロサイトにおけるグルタミン酸受容体刺激によるCaMキナーゼⅡの活性化反応と中間径フィラメントのリン酸化反応
……　矢野茂敏[1・2]、福永浩司[1]、生塩之敬[2]、宮本英七[1]
（熊本大・医・第一薬理[1]、脳神経外科[2]）

89. NMDA受容体の分子的多様性と機能
……　崎村建司[1]、森　　寿[1]、目黒裕之[1]、轡田達也[1]、柏渕信子[1]、池田和隆[1]、永沢道明[1]、荒木一明[1]、櫛谷悦子[1]、山倉智宏[1]、柾木　永[1]、渡辺雅彦[2]、三品昌美[1]
（新潟大・脳研・神経薬理[1]、北海道大・医・第一解剖[2]）

90. $GABA_B$受容体に特異的なモノクローナル抗体のアンタゴニスト作用について
……　中安博司[1]、木村　宏[2]、栗山欣弥[1]
（京都府立医大・薬理[1]、滋賀医大・分子神経[2]）

91. ラット培養海馬細胞におけるATP受容体を介するシナプス伝達の存在
……　井上和秀、中沢憲一、小泉修一、綿野智一
（国立衛生試験所・薬理）

92. ATPによるラット線条体dopamine放出機序
……　張　玉祥、山下拓史、中村重信
（広島大・医・第三内科）

93. 脳室脈絡膜及び眼球毛様突起に特異的に発現するラット脳エクト型ホスホジエステラーゼⅠのcDNAクローニング
……　成田正明、佐野公彦、中村　肇
（神戸大・医・小児）

B会場　ミニシンポジウム6

9：00～11：00（ドパミン神経伝達の薬物による調節）

94. ATP感受性K^+チャネルオープナー、ニコランジールの線条体ドパミン放出に及ぼす影響
……　田中隆彦、吉田真美、横尾秀康、溝口克弘、江本浩幸、石井秀夫、古賀千尋、田中正敏
（久留米大・医・薬理）

95. 側坐核Dopamine遊離に及ぼすBenzodiazepine受容体AgonistおよびInverse-agonistの効果
……　富山勝則[1]、村井為敦[2]、越川憲明[1]、小林雅文[1]
（日本大・歯・薬理[1]、歯科麻酔[2]）

96. amantadineによるdopamine放出機序
……高橋哲也、山下拓史、張　玉祥、北村　健、鳥居　剛、中村重信
（広島大・医・第三内科）

97. NBQX投与がラット線条体の細胞外ドパミンにおよぼす影響
……坂井研一[1]、土田和生[2]、氏家　寛[2]、柏原健一[1]、秋山一文[2]、黒田重利[2]
（岡山大・医・神経内科[1]、精神科・神経科[2]）

98. nicotineのdopamine uptakeに対する影響
……山下拓史[1]、高橋哲也[1]、張　玉祥[1]、北山滋雄[2]、土肥敏博[2]、川上秀史[1]、中村重信[1]
（広島大・医・第三内科[1]、歯・薬理[2]）

99. 多重標識オートラジオグラフィー法によるヒスタミンH_3受容体とドパミンD_1、D_2受容体の局在分布解析
……柳　鍾薫[1]、谷内一彦[1]、岩田　錬[2]、井戸達雄[2]、渡邊建彦[1]
（東北大・医・第一薬理[1]、サイクロトロンRIセ[2]）

11：00～12：00　ポスター討論（奇数番号）　D会場（6F展示場）
12：00～12：40　―― 昼　　食 ――
12：40～13：40　ポスター討論（偶数番号）　D会場（6F展示場）

一般口演

13：40～15：40（細胞骨格・カルシウム）

100. 再構成系におけるラットアストロサイト由来細胞骨格間相互作用－マイクロフィラメントによるグリアフィラメントの重合促進－
……伊藤仁一、増田真理、田中　亮
（名古屋市大・医・第一生化）

101. ニューロフィラメントH鎖キナーゼは脳のcdc 2関連キナーゼcdk 5か？
……久永真市[1]、石黒幸一[2]、内田庸子[2]、岸本健雄[1]
（東工大・生命理工[1]、三菱化成生命科学研[2]）

102. 培養神経細胞における突起形成と微小管安定化
……関本澄人、田代朋子、小宮義璋
（群馬大・医・分子病態）

103. 神経成長円錐のCa^{2+}感受性アクチン結合蛋白質 －カルデスモンとゲルゾリン－
……田中潤也、吉良正浩、祖父江憲治
（大阪大・医・バイオメディカル教育研究セ・神経生化）

104. ラットドレブリンのアクチン結合部位の解析
……白尾智明[1]、石川良樹[2]、林　謙介[1]、小林　聡[1]
（群馬大・医・行動分析[1]、薬理[2]）

105. 脳におけるアネキシンVI結合蛋白質
……乾　　誠、渡辺達夫、伊賀正英、祖父江憲治
（大阪大・医・バイオメディカル教育研究セ・神経生化）

15：40～17：40（細胞運動・学習・膜輸送）

106. 中枢神経回路網障害の構造・機能修復を*in vitro*で解析する系の開発
……黒田洋一郎[1]、藤井　聡[2]、川原正博[1]、小林和夫[1]、村本和世[1]
（都神経研・神経生化学[1]、杏林大・医・生化学[2]）

107. 海馬長期増強に伴うCaMキナーゼⅡの活性化反応
……福永浩司[1]、L.Stoppini[2]、D.Muller[2]、宮本英七[1]
（熊本大・医・第一薬理[1]、ジュネーブ大・医・薬理[2]）

108. 神経ペプチドプロセシング酵素の軸索内輸送と生理機能
……加藤　武
（横浜市大大学院・総合理学・分子認識）

109. 培養アストログリアNa^+-Ca^{2+}交換系：その存在とK^+による調節
……田熊一浩、松田敏夫、橋本　均、浅野省一、馬場明道
（大阪大・薬・薬理）

110. ストレスとHSP28／27の重合型と解離型：グリオーマ細胞およびラット組織での解析
……稲熊　裕、長谷川かおり、後藤幸代、加藤兼房
（愛知県コロニー・発障研・生化）

111. 低分子量ストレス蛋白質複合体の燐酸化による解離
……加藤兼房、長谷川かおり、後藤幸代、稲熊　裕
（愛知県コロニー・発障研・生化）

C会場

一般口演

9：00～10：20（神経情報伝達）

112. シナプトタグミンを欠失したPC12細胞へのコリンアセチルトランスフェラーゼ遺伝子の導入とアセチルコリンの放出
……笠井陽子[1]、吉田　明[2]、三澤日出巳[3]、高橋正身[1]
（三菱化成生命科学研[1]、早大・人総研[2]、都神経研[3]）

113. Achatin－Ⅰの神経修飾作用
……劉　国君、Santos, Divina E.、Emaduddin, Muhammad.、荒木陽子、竹内　宏
（岐阜大・医・第一生理）

114. ラットκオピオイド受容体cDNAのクローニング
……南　雅文[1]、佐藤公道[2]
（京都大・薬・薬理[1]、分子作用制御[2]）

115. 脳内カテコールアミンとインドールアミン代謝の相互作用
……丸山和佳子[1]、太田深雪[2]、高橋　勤[3]、直井　信[4]
（名古屋大・医・神経内科[1]、岐阜県立多治見病院・精神科[2]、江南女子短大[3]、名古屋工業大[4]）

10：20～11：40（神経情報伝達・情報交換機構）

116. NADPサイクリングを用いる一酸化窒素合成酵素（NOS）の微量測定法
……王　瑋[1]、井上順雄[1]、中山　孝[1]、加藤尚彦[1]、石井當男[2]
（横浜市大・医・第一生化[1]、第二内科[2]）

117. ノルエピネフリン刺激による白鼠上頚部交感神経節内一酸化窒素依存性cyclic GMP生成系とその細胞局在性
……安藤正人、立岔延族、永田　豊
（藤田保衛大・医・生理）

118. ラット線条体プロテインキナーゼCのメタンフェタミン投与に伴う変化
……田口淳一、井端泰彦
（京都府立医大・第二解剖）

119. 小脳顆粒細胞転写制御系におけるグルタミン酸応答性とその調節系の解析
……津田正明
（岡山大・薬・微生物）

11：00～12：00　ポスター討論（奇数番号）　D会場（6F展示場）
12：00～12：40　―― 昼　　食 ――
12：40～13：40　ポスター討論（偶数番号）　D会場（6F展示場）

13：40～15：40（行動・代謝・疾患モデル）
120. 自己チオリン酸化によるカルモデュリン依存性プロテインキナーゼⅡの自己活性化について
……石田敦彦、木谷隆子、藤澤　仁
（旭川医大・第一生化）
121. プロテインキナーゼC各アイソザイムの機能的役割分担について
― RBL－2H3細胞を用いた検討 ―
……小澤光一郎[1]、Michael A.Beaven[2]
（広島大・医・総合薬・薬品分析化学[1]、Lab. Chem. Pharmacol.•NHLBI•NIH[2]）
122. ヒスタミンH_1受容体脱感作機構のリン酸化酵素阻害剤による検討
……堀尾嘉幸[1]、劉　業奇[1]、伊藤誠二[2]、福井裕行[1]
（大阪大・医・第二薬理[1]、大阪バイオサイエンス研[2]）
123. プロスタグランジンD合成酵素の脳軟膜・脈絡叢における発現及び脳脊髄液への分泌
……裏出良博[1]、北浜邦夫[2]、大石　仁[3]、金子武嗣[3]、水野　昇[3]、鈴木登志子[4]、渡部紀久子[4]、早石　修[4]
（日本チバガイギー国際研[1]、INSERN[2]、京大・医・脳形態[3]、大阪バイオサイエンス研[4]）
124. ESR-CTシステムによるラット脳の2-(14-carboxypropyl)-2-ethyl-4、4-dimethyl-3-oxazolidinyloxyの画像について
……平松　緑[1]、小松真紀子[1]、及川和夫[2]、劉　健康[3]、鎌田　仁[1]
（山形県テクノポリス財団・生物ラジカル研[1]、山形県工業技術セ[2]、岡山大・医・分子細胞医学・神経情報[3]）
125. 自傷行為モデルラットのドーパミン神経系と受容体 －Ⅲ新生仔期6－OHDA投与ラットのドーパミンD_1受容体の変動：[3H]SCH-23390を用いたレセプターオートラジオグラフィー－
……岡村　均[1]、横山ちひろ[2]、井端泰彦[1]
（京都府立医大・第二解剖[1]、精神[2]）

15：40～17：40（疾患モデル・神経・精神疾患）
126. 抗てんかん薬の代謝と神経系への副作用
……岩崎和彦[1]、中村和彦[1]、高城健司[1]、久郷敏明[1]、松尾義則[2]、早原敏之[4]、細川　清[3]、洲脇　寛[1]
（香川医大・精神[1]、生化[2]、附属病院[3]、国立療養所南岡山病院・臨床[4]）
127. E1マウス発達過程における脳内SOD活性の変化に及ぼすアロプリノールの効果と抗けいれん作用発現機序
……村島善也[1]、多田博史[2]、笠茂公弘[3]、篠崎たき子[1]、中本百合江[1]、諸岡啓一[4]、鈴木二郎[5]
（東京都精神研[1]、国立療養所・千石荘病院[2]、日大・医・精神神経[3]、東邦大・医・第一小児科[4]、精神神経[5]）

128. セルレチドのてんかん準備性獲得におよぼす抑制効果
……　板野俊文[1]、宮本　修[2]、岡田泰士[3]、根木哲朗[2]、村上哲英[3]、畠瀬　修[1]
（香川医大・生理[1]、基礎スポーツ医学[2]、生物[3]）

129. パーキンソン病態モデルラットの線条体アセチルコリン作動性神経におけるドーパミンD_1およびD_2受容体のアップレギュレーション
……　佐藤和夫[1,2]、奥村福一郎[2]、植田弘師[1]、三須良実[1]
（横浜市大・医・薬理[1]、麻酔科[2]）

130. メタンフェタミン慢性投与後におけるマウス線条体3MT代謝の変化とセロトニン神経系の関与
……　盛政忠臣、金行孝雄、上村尚人、庄盛敏廉
（岡山大・医・神経内科）

131. 新しい抗精神病薬OPC14597のドーパミン遊離に対する影響
……　仙波純一[1]、渡辺明子[2]、鬼頭昭三[1]、融　道男[2]
（放送大・教養[1]、東京医科歯科大・医・神経内科[2]）

ポスター

第1日　10月25日（月）　D会場（6F）

9：00～　　ポスター貼布
11：00～12：00　討論（奇数番号）
12：40～13：40　討論（偶数番号）
17：00～　　撤去

＜脳障害・虚血・細胞死＞

132. 脳虚血急性期における血管作動性物質の経時的変動とその臨床応用
……水島秀勝[1]、佐々木健[1]、荒井好範[1]、嶋津基彦[1]、松本　清[1]、塩田清二[2]、中井康光[2]、竹田　稔[3]
（昭和大・医・脳神経外科[1]、第一解剖[2]、第一生化[3]）

133. 脳虚血による低分子ストレス蛋白(HSP27およびαBクリスタリン)の誘導と虚血耐性との相関
……加藤宏之[1]、劉　　勇[1]、糸山泰人[1]、小暮久也[2]、加藤兼房[3]
（東北大・医・神経内科[1]、神経病理研[2]、愛知県コロニー生化[3]）

134. 脳虚血による海馬コリン神経機能低下に対するペントバルビタールの効果：組織学的および機能的評価における相違
……石丸裕久、高橋　章、五十嵐康、丸山悠司
（群馬大・医・神経精神薬理（ツムラ））

135. 一過性前脳虚血時におけるLeukotriene C 4の動態と神経細胞障害との関係
……松本昌泰[1]、大槻俊輔[1]、鎌田武信[1]、林　陽子[2]、山本尚三[2]
（大阪大・医・第一内科[1]、徳島大・医・生化[2]）

136. 慢性脳血流低下モデル動物の行動・脳内モノアミン代謝からみた脳代謝賦活薬の効果
……車谷隆宏、武田雅俊、工藤　喬、谷向　知、新川久義、服部英幸、播口之朗、西村　健
（大阪大・医・精神）

137. カイニン酸による培養アストロサイトのタウリン遊離作用
……田中康一、小山　豊、馬場明道
（大阪大・薬・薬理）

138. 虚血性細胞障害、記憶障害における細胞内情報伝達系酵素活性の関与と治療法について
……石川敏三[1]、脊戸山景子[1]、仲西　修[2]、前川剛志[3]、坂部武史[1]
（山口大・医・麻酔蘇生[1]、九州歯大・歯科麻酔[2]、山口大・医・付属病院総合診療[3]）

139. ベラトリジンによるNa^+チャンネルを介した神経栄養因子除去後のラット上頸神経節細胞の細胞死の抑制
……田中秀逸、小池達郎
（佐賀医大・化学）

140. 高用量のmethamphetamine投与によるdopamineおよびserotonin神経系への神経毒性効果とグルタミン酸放出との関係について
……安部川智浩、大森哲郎、小山　司
（北海道大・医・精神）

141. E１マウスの脳内グルタメイトレセプター結合能
……荻田喜代一[1]、榎本理世[2]、加太英明[3]、森　昭胤[3]、米田幸雄[1]
（摂南大・薬・薬理[1]、現・神戸学院大・薬・薬理[2]、岡山大・医・分子細胞医学研[3]）

142. 自然発症高血圧ラット脳内細胞骨格蛋白mRNAの一過性脳虚血後の代償性変化
……浅沼幹人[1]、西林佐紀子[1]、近藤洋一[1・2]、平田　洋[1・2]、小川紀雄[1]、森　昭胤[1]
（岡山大・医・分子細胞医学研・神経情報学[1]、第三内科[2]）

143. 局所脳虚血におけるNOS活性の組織化学的観察
……荒井好範[1]、水島秀勝[1]、嶋津基彦[1]、松本　清[1]、塩田清二[2]、中井康光[2]、竹田　稔[3]
（昭和大・医・脳神経外科[1]、第一解剖[2]、第一生化[3]）

144. ラット一過性脳虚血モデル慢性期の脳内鉄沈着について
……近藤洋一[1・2]、西林佐紀子[1]、田中健一[1]、浅沼幹人[1]、平田　洋[1・2]、小川紀雄[1]、森　昭胤[1]
（岡山大・医・分子細胞医学研・神経情報[1]、第三内科[2]）

145. 低酸素低グルコース処理による培養海馬アストロサイトからの興奮性アミノ酸放出のメカニズム
……尾形直則[1・2]、中村洋一[1]、辻　浩司[1・2]、片岡喜由[1]
（愛媛大・医・第一生理[1]・整形外科[2]）

146. 脳虚血の蛋白チロシンリン酸化に対するの影響１　－pp42のチロシン残基リン酸化亢進－
……大槻俊輔[1]、松本昌泰[1・2]、松下幸司[1]、萬代研二[1]、北川一夫[1]、小川　智[1]、上田周一[2]、柳原武彦[2]、鎌田武信[1]
（大阪大・医・第一内科[1]、神経内科[2]）

147. 脳虚血の蛋白チロシンリン酸化に対するの影響２　－遅発性神経細胞壊死との関わり－
……大槻俊輔[1]、松本昌泰[1・2]、松下幸司[1]、萬代研二[1]、北川一夫[1]、小川　智[1]、上田周一[2]、柳原武彦[2]、鎌田武信[1]
（大阪大・医・第一内科[1]、神経内科[2]）

148. 脳虚血の蛋白チロシンリン酸化への影響３　－pp60^{c-src}のチロシンキナーゼ活性の遅発性神経細胞壊死への関与－
……大槻俊輔[1]、松本昌泰[1・2]、松下幸司[1]、萬代研二[1]、北川一夫[1]、小川　智[1]、上田周一[2]、柳原武彦[2]、鎌田武信[1]
（大阪大・医・第一内科[1]、神経内科[2]）

＜学習・記憶＞

149. 弁別学習の遂行に伴うラット中隔ドーパミン代謝の亢進
……堀　耕治[1]、山室　裕[1]、田中淳一[2]、野村正彦[1]
（埼玉医大・第一生理[1]、鳴門教育大・人間形成基礎[2]）

150. 大脳皮質体性感覚野におけるLTPに伴うCaM KinaseⅡの消長
……山口知子[1]、川上順子[2]、宮田麻理子[2]
（東女医大・生化[1]、第二生理[2]）

151. トリのインプリンティング行動の神経化学的研究
……金松知幸、高原ひろみ、塚田裕三
（創価大・生命科学研）

＜疾患モデル＞

152. E１マウス発作とPTZ注射による痙攣発作の脳蛋白質合成に及ぼす影響
……黒田陽子、撫井弘二、中西亜紀、古塚大介、大西　博、山上　榮
（大阪市大・医・神経精神）

153. Glutamate受容体を介する中枢神経内Norepinephrine Release調節機序と高血圧における意義について －高血圧自然発症ラットを用いた検討－

…… 津田和志[1]、増山善明[2]、Menek Goldstein[3]
（和歌山医大・循環器内科[1]、東京労災病院[2]、New York Univ. Medical Center[3]）

154. フェンサイクリジンのラット前頭前野ドーパミン遊離に及ぼす影響

…… 本藤久雄[1]、中原辰雄[2]、中村　薫[1]、堤　哲之[1]、米澤裕次[1]、橋本喜次郎[1]、松本　孝[1]、平野　誠[1]、内村英幸[1]
（国立肥前療養所・情動行動障害セ・臨床研・生化学[1]、九州大・理・化学[2]）

155. E１マウス脳のペプチド画分の解析

…… 小出誠司、大西　博、片山雅文、甲斐利弘、山上　栄
（大阪市大・医・神経精神）

156. 遺伝的運動障害ラットの小脳内神経伝達物質代謝の変調

…… 國井修一[1]、田丸政男[2]、大野京子[3]、安藤正人[4]、藤田公和[4]、永田　豊[4]
（椙山女学園大短期大学部[1]、鈴鹿医療科学技術大[2]、名古屋大・環研[3]、藤田保衛大・医・生理[4]）

157. ラット前部帯状回皮質における興奮性アミノ酸遊離に対するフェンサイクリジンの影響－脳内微小透析法による検討

…… 米沢裕次[1]、本藤久雄[1]、中村　薫[1]、堤　哲之[1]、橋本喜次郎[1]、松本　孝[1]、平野　誠[1]、内村英幸[1]、黒木俊秀[2]、田代信維[2]
（情動行動障害セ・国立肥前療養所[1]、九州大・医・神経精神[2]）

158. フェノバルビタール禁断症候における脳内抑制性および興奮性アミノ酸神経の関与

…… 田中佐知子[1]、土田晃敬[1]、木内祐二[3]、山元俊憲[2]、小口勝司[3]、吉田武美[1]、黒岩幸雄[2]
（昭和大・薬・毒物[1]、臨床薬[2]、医・第一薬理[3]）

159. ニューロフィラメント欠損ウズラ（Quiver）の脳における神経伝達物質動態の変化

…… 長谷川宏之[1]、村山俊彦[1]、北村佳久[1]、高橋明美[2]、板倉智敏[2]、野村靖幸[1]
（北海道大・薬・薬効[1]、獣医・比較病理[2]）

160. *dw*イヌマウス脳におけるカルシウム結合蛋白質 －ヒポカルシンの免疫組織化学的研究－

…… 杉崎哲朗、山田　孝、高松　研、野口鉄也
（東邦大・医・第二生理）

161. p-Chloroamphetamine投与による脳内monoamineの経時的変化
－ラット側坐核における脳内透析法による検討－

…… 杉田倫太郎[2]、関谷　紫[3]、寺田恭子[1]、澤　　温[4]、伊藤哲一彦[1]、笠原　嘉[1]、野村総一郎[5]
（藤田保衛大・医・精神[1]、トヨタ記念病院[2]、桶狭間病院[3]、さわ病院[4]、立川病院[5]）

162. 高血圧自然発症ラットの脳内より見出したイサチン（内因性MAO活性阻害物質）

…… 浜上尚也、遠藤　泰、南　　勝
（東日本学園大・薬・薬理）

＜細胞骨格・カルシウム＞

163. 培養アストロサイトF－アクチン再構成に対するエンドセリンの作用

…… 小山　豊、藤田茂樹、馬場明道
（大阪大・薬・薬理）

164. ヒト脳リカバリン様蛋白質（BDRP１）のcDNAクローニング

…… 小林正明、高松　研、藤城正敏、斎藤茂治、野口鉄也
（東邦大・医・第二生理）

165. 非神経細胞に発現したドレブリン蛋白が細胞接着に及ぼす影響

…… 池田圭朗[2]、白尾智明[3]、戸谷重雄[2]、植村慶一[1]
（慶應義塾大・医・生理[1]、脳外[2]、群馬大・医・行動分析[3]）

166. IDPN中毒神経における細胞骨格再編成とニューロフィラメント蛋白リン酸化との関連
…… 田代朋子、今井礼子、小宮義璋
（群馬大・医・分子病態）

＜分化・発育＞

167. スフィンゴシンによるマウス神経芽腫細胞の神経突起伸展の抑制
…… 上村敬一、武富　保
（信州大・医・心脈管病・脂質生化）

168. 成長円錐を退縮させる活性因子の作用機序：G蛋白共役系の関与
…… 五十嵐道弘[2]、S.M.Strittmatter[1]、T.Vartanian[1]、M.C.Fishman[1]
（マサチューセッツ総合病院[1]、現・群馬大・医・分子病態[2]）

169. ベンゾジアゼピンアンタゴニスト結合部位のラット脳内分布及び生後発達
…… 兼子幸一、車地暁生、融　道男
（東京医科歯科大・医・神経精神）

170. 培養ラットニューロンのシナプス形成におけるアストロサイトの役割
…… 中西圭子[1]、大河内由香[1]、植木孝俊[1]、浅井清文[1]、加藤泰治[1]、黒田洋一郎[2]
（名古屋市大・医・分子医研・生体制御[1]、都立神経研・生化[2]）

171. ラット胎児脳シナプトソーム画分に存在する50kDaタンパク質の精製と一次構造解析
…… 萩原民雄、北原功雄、竹田二美代、竹田　稔
（昭和大・医・第一生化）

172. 植物由来リグナン関連化合物の神経細胞分化促進、マウス潜在学習能力増強の効果
…… 毛利哲郎、山崎眞津美、千葉賢三
（北陸大・薬・創薬研）

＜代　謝＞

173. ネオスチグミン脳室内投与による血糖上昇とノルアドレナリン、ドーパミン神経活動の亢進
…… 高橋　章、石丸裕久、五十嵐康、丸山悠司
（群馬大・医・神経精神薬理（ツムラ））

174. ラット肝ミトコンドリア外膜からのキヌレニン3－モノオキシゲナーゼの精製
…… 植村富彦、平井久美子（都精神医学総合研・神経化学）

175. 脳シナプス膜脂質の代謝回転とその加齢変化
…… 田中康一、近　一夫、脇　初枝、安藤　進
（都老人総合研・生体膜）

176. Nicotineはdexamethasoneの持つkainate神経毒性の増強作用を抑制する
…… 鬼頭昭三[1]、仙波純一[1]、三好理絵[2]、古津みを[1]
（放送大学[1]、東京女子医大・薬理[2]）

＜膜輸送＞

177. ニューロンのグルタミン酸刺激後の脳型Naポンプ活性増大はターンオーバー数の増大による
…… 松井英男[1]、誉田晴夫[1]、井上順雄[2]
（杏林大・医・第一生化[1]、横浜市大・医・第一生化[2]）

178. rasトランスフォームした細胞で変調するブラジキニン反応 －膜過分極により活性化するCa^{2+}オシレーションおよびCa^{2+}流入－
…… 橋井美奈子[1,2]、三辺義雄[2]、村崎欣子[2]、野澤義則[3]、東田陽博[1]
（金沢大・医・神経情報研・神経物性[1]、国立精神神経センター[2]、岐阜大・医・生化[3]）

179. 神経終末モデルとしての血小板へのセロトニン取り込みに対する有機水銀性SH阻害剤チメロサールの抑制作用機構
…… 西尾廣昭、根笹賢一、平野　潤、仲田義啓
（広島大・医・総合薬学・薬効解析）

180. ニューロンのNaポンプアイソフォーム活性のK^+依存性

…… 井上順雄[1]、松井英夫[2]、加藤尚彦[1]
（横浜市大・医・第一生化[1]、杏林大・医・第一生化[2]）

181. カルシウムおよびグアニンヌクレオチドによる開口分泌はオール・オア・ナンの反応である
－肥満細胞をモデルとして－

…… 秀　和泉[1]、仲田義啓[1]、P.E.R.Tatham[2]、B.D.Gomperts[2]
（広島大・医・総合薬学・薬効解析[1]、University College London[2]）

ポスター

第2日　10月26日(火)　D会場（6F）

9：00～　　ポスター貼布
11：00～12：00　討論（奇数番号）
12：40～13：40　討論（偶数番号）
17：00～　　撤去

＜神経栄養因子＞

182. スタウロスポリンによる神経突起の誘導
……佐野　護、岩永　操
（愛知県コロニー研・形態）

183. 神経成長因子による摘出白鼠交感神経節内トランスグルタミナーゼ活性の抑制効果とGM1糖脂質による修飾作用
……安藤正人、立岔廷族、永田　豊
（藤田保衛大・医・生理）

184. Cytokineにより活性化されるastrocyteのneurotrophic activity
－脳幹コリン作動性ニューロンに対する作用－
……左合正周、吉田一成、若本寛起、上口裕之、大谷光弘、戸谷重雄
（慶應義塾大・医・脳神経外科）

185. 大腸菌による脳由来神経栄養因子の発現
……藤森　清、半澤宏子、福薗真一、高橋健一、清水範夫
（㈱日立製作所・基礎研）

186. NGIF、A Neuroblastoma Growth Inhibitory Factor from Human Astrocytoma with Neurotrophic Properties
……Eksioglu、Yamanz[1]、飯田淳子[2]、山形一雄[2]、浅井清文[1]、加藤泰治[1]
（名古屋市大・医・分子医学研[1]、住友金属工業[2]）

187. 正常ラットならびに小脳障害マウスにおける脳NO合成酵素活性　－HPLCによる検討－
……池田正行[1,2]、森田育男[1]、室田誠逸[1]、湯浅龍彦[2]、宮武　正[2]
（東京医科歯科大・大学院・細胞機能制御[1]、医・神経内科[2]）

188. 培養成熟マウス・シュワン細胞に対する各種増殖因子の作用
……渡部和彦[1]、田中順一[1]、豊原敬三[2]、酒井　紀[2]
（慈恵会医大・神経病理[1]、第二内科[2]）

189. 神経突起伸長作用を示すCon A結合塩基性タンパク質
……石岡憲昭[1]、佐藤淳子[1]、中村純太[1,2]、大久保辰雄[1,3]、栗岡　晋[1]
（慈恵医大・医科研・生化[1]、第二外科[2]、第一外科[3]）

190. 損傷周囲脳における細胞応答反応と塩基性線維芽細胞成長因子によるその修飾
－c-fos mRNAでの検討－
……湯口貴導[1]、甲村英二[1]、山田和雄[1]、山下俊英[1]、大槻秀夫[1]、岸口稔睦[1]、榊　孝之[1]、和中明生[2]、遠山正彌[2]、早川　徹[1]
（大阪大・医・脳神経外科[1]、第二解剖[2]）

191. 神経栄養因子活性を持つペプチドについて
……石黒麻利子[1]、村山美由紀[1]、大森　彬[2]、浜登希子[1]
（三菱化成生命科学研・脳神経科[1]、構造解析[2]）

192. サイトカイン、glucocorticoidによるアストロサイトのNGF、NCAM発現調節
……吉田一成、左合正周、矢崎貴仁、若本寛起、上口裕之、稲葉　真、大谷光弘、戸谷重雄
（慶應義塾大・医・脳神経外科）

＜再生・移植＞

193. C 6 グリオーマ細胞による神経突起伸長の抑制作用
……渡辺英治[1]、細川　浩[2]、小林裕明[3]、大平敦彦[1]、村上富士夫[3]
（愛知県コロニー・発達障害研[1]、京大大学院大学人間環境学研究科・行動調節機構[2]、大阪大・基礎工学・生物工[3]）

194. ラット舌下神経損傷後の神経再生過程におけるERKs mRNAの発現
……桐生寿美子、前野浩巳、木山博資（大阪大・医・バイオ研神経機能解剖）

＜細胞運動・軸索輸送＞

195. 神経細胞特異的タンパク質（PNP14）の脳内分布、およびmRNA発現部位の解析
……中条茂男[1]、塩田清二[2]、中井康光[2]、中谷一泰[1]
（昭和大・薬・生物化学[1]、医・第一解剖[2]）

196. ストレプトゾトシン誘発糖尿病ラットの遅い軸索輸送に対するシロスタゾールの作用
……山本恵史[1]、保田好信[1]、小宮義璋[2]
（大塚製薬㈱徳島研[1]、群馬大・医・分子病態[2]）

＜神経伝達機構＞

197. NG108-15細胞におけるカルシウムキレート剤導入後のブラジキニン反応の解析
……木村康宏、東田陽博
（金沢大・医・神経物性）

198. Ca^{2+}／Calmodulin-dependant Protein Kinase V from Rat Cerebrum －精製と組織分布－
……杉田竜太郎、望月秀雄、伊藤直史、日高弘義
（名古屋大・医・薬理）

199. Nitric oxide合成酵素基質（L-Arginine）および阻害剤（LNAME、LNMMA）の脳内局所灌流による脳内アミノ酸レベルの変化
……太田晃一、福内靖男、島津邦男、小松本悟、一條真琴、荒木信夫、柴田　護
（慶應義塾大・医・神経内科）

200. Dopamine（DA）遊離を制御するDA自己受容体機能に及ぼすN-ethylmaleimideとforskolinの影響
……山田茂人[1]、横尾秀康[2]、高木俊博[3]、西彰五郎[1]
（久留米大・医・脳疾患研[1]、薬理[2]、精神神経科[3]）

201. cAMP依存性プロテインキナーゼのGanglioside による活性化反応
……荒金　太[1・2]、福永浩司[1]、宮崎康二[2]、岡村　均[2]、宮本英七[1]
（熊本大・医・第一薬理[1]、産婦人科[2]）

202. 淡蒼球内GABA作働性神経におけるGABA放出調節機構 －マイクロダイアリーシス法による解析－
……橋本恒一、栗山欣彌
（京都府立医大・薬理）

203. バルプロ酸によるモノアミン合成の調節
……本橋伸高、斉藤　浩、岡本泰昌、林　輝男、山脇成人
（広島大・医・神経精神）

204. ニューロキニンAに対する高感度酵素免疫測定法の開発 －ラット感覚神経系におけるニューロキニンA様免疫活性の性質－
……猪股裕二、加藤　武
（横浜市立大・大学院・総合理学研・分子認識）

205. ムスカリン受容体のリン酸化部位欠損変異種の性質
……亀山仁彦[1]、中田博子[1]、芳賀和子[1]、芳賀達也[1]、茂呂　修[2]、Sadée Wolfgang[2]
（東京大・医・脳研生化[1]、カリフォルニア大・サンフランシスコ校[2]）

206. 選択的セロトニン取り込み阻害薬フルボキサミン（SME3110）の神経化学的検討
……木下徳久[1]、神庭重信[1]、新谷　太[1]、丹生谷正史[1]、鈴木映二[1]、八木剛平[1]、浅井昌弘[1]、中木敏夫[2]、加藤隆一[2]
（慶應義塾大・医・精神神経[1]、薬理[2]）

207. 株化した内分泌細胞におけるSNAP受容体の発現
……於保　力、伊藤朋子、高橋正身
（三菱化成生命科学研）

208. 神経系に特異的なG蛋白質γサブユニットについて
……森下理香、加藤兼房、浅野富子
（愛知県コロニー・研・生化）

209. インターロイキン－1βによるサブスタンスP受容体の発現制御
……小河宏城、三木新也、西尾廣昭、仲田義啓
（広島大・医・総合薬・薬効解析）

210. アミノ酸置換によるマストパランの活性部位の検討 －溶血活性とカテコールアミン放出活性の分離－
……笠井久隆[1]、伊藤三恵[2]、高橋俊一[2]、柳生大祐[2]、栗田　孝[3]、熊倉鴻之助[4]、伊藤　尚[2]
（都立医療技術短大[1]、青山学院大・理・化学[2]、ヘキストジャパン・医総研[3]、上智大・生命研[4]）

211. 細胞外神経伝達物質濃度におよぼすNMDAの作用
……菅原　恵、芝軒信次、小暮美樹、九穂泰三、松本　明、石川紘一
（日本大・医・薬理）

212. E１マウスの痛覚鈍麻－発作の影響とオピオイド系の関与－
……片山雅文、大西　博、小出誠司、甲斐利弘、山上　栄
（大阪市大・医・神経精神）

213. カプトプリル脳室内投与が正中視索前核領域モノアミン代謝におよぼす影響
……田中淳一[1]、堀　耕治[2]、山室　裕[2]、野村正彦[2]
（鳴門教育大・人間形成基礎[1]、埼玉医大・第一生理[2]）

214. フェレット腸管からのセロトニン脱顆粒と腹部求心性迷走神経活動におよぼす制癌剤の影響
……遠藤　泰、南　勝、浜上尚也
（東日本学園大・薬・薬理）

215. TriprolidineのachatinーI拮抗作用
……Divina. E. Santos、劉　国君、張　唯、荒木陽子、竹内　宏
（岐阜大・医・第一生理）

＜情報交換機構＞

216. エタノールのリン脂質 －カルシウム細胞内情報伝達系への作用－
……斎藤　浩[1・2]、西田　朗[1]、福田裕恭[1・2]、清水雅美[1]、内富庸介[2]、本橋伸高[2]、山脇成人[2]
（国立呉病院・臨床研[1]、広島大・医・神経精神[2]）

217. 三環系抗うつ薬のラット脳ホスホリパーゼC活性化作用
……福田裕恭[1・2]、西田　朗[1]、清水雅美[1]、岡本泰昌[2]、山脇成人[2]
（国立呉病院・臨床研[1]、広島大・医・神経精神[2]）

218. ムスカリン性アセチルコリン受容体を介する情報伝達系に対するリチウムの効果
……深間内文彦[1]、D.-M.Chuang[2]
（東京医科歯科大・難治疾患研・プロジェクト[1]、NIH[2]）

219. ラット大脳に豊富に存在するCaM結合蛋白質（CaMBP64）について
……亀下　勇、石田敦彦、藤澤　仁
（旭川医大・第一生化）

220. 胎盤培養細胞からの成長ホルモン分泌促進因子（GRH）の分泌 －ダイアシルグリセロールのPKCを介さないGRH放出機序の存在？－
……溝渕睦彦[1]、Frohman L.A.[2]
（愛媛大・医・精神神経[1]、イリノイ大・医・内科[2]）

221. Cキナーゼの基質蛋白質MARCKSの生理機能
……谷口寿章、古橋　潔、千谷晃一
（藤田保衛大・総医研・医高分子）

222. バキュロウイルス発現系によるG蛋白質（GL_1、GL_2、Gq）の発現と機能
……中村史雄[1]、加藤真理子[1]、亀山仁彦[1]、額田敏秀[2]、芳賀達也[1]
（東京大・医・脳研生化[1]、都精神研・神経化学[2]）

223. ラット脳のフォスファチジルセリン特異的結合タンパク質
……中岡隆志、小島直也、浜本敏郎、辻　崇一
（理研　国際フロンティア・糖遺伝情報）

224. 単一C 6細胞におけるセロトニン刺激性細胞内カルシウム動員
－画像解析装置を用いた検討－
……加賀谷有行[1]、山路隆之[1]、林　輝男[1]、岡本泰昌[1]、西田　朗[2]、清水雅美[2]、本橋伸高[1]、山脇成人[1]
（広島大・医・神経精神[1]、国立呉病院・臨床研[2]・精神神経）

225. ラット大脳皮質および線条体におけるチューブリン －Gs連関によるアデニル酸シクラーゼ活性の調節－
……八田愼一[1]、雨宮紀人[1]、芦沢　健[2]、齋藤利和[2]、大鹿英世[1]
（札幌医大・医・薬理[1]、神経精神[2]）

＜行動・睡眠・リズム＞

226. Bromocriptine はD_2 Receptor agonistか？　－Microdialysis法による検討－
……井上幸紀、切池信夫、奥野正景、伊藤英樹、藤嵜泰利、山上　栄
（大阪市大・医・神経精神）

227. ラット緊縛ストレスに伴う脳内アミン変動に及ぼすフィトンチッドの影響
……富田晃代、山岡貞夫、鯉淵典之
（獨協医大・第一生理）

228. 5-HT_{1A}作動薬（Ipsapirone、SM3997)の種々の摂餌条件下におけるラット摂餌行動への影響
……伊藤英樹[1・2]、切池信夫[1]、井上幸紀[1]、奥野正景[1]、藤嵜泰利[1]、山上　栄[1]
（大阪市大・医・神経精神[1]、宝塚三田病院[2]）

229. Methamphetamineによる行動感作に対する競合的及び非競合的NMDA受容体拮抗薬の影響
…… 大森哲郎、安倍川智浩、小山　司
（北海道大・医・精神）

230. 電撃ストレスによる脳内セロトニンおよびドーパミン代謝の亢進
－2つの電撃強度における効果の比較－
…… 井上　猛、小山　司、土屋　潔
（北海道大・医・精神）

ポスター

第3日　10月27日(水)　D会場（6F）

9：00～　　ポスター貼布
11：00～12：00　討論（奇数番号）
12：40～13：40　討論（偶数番号）
17：00～　　撤去

＜老化・アルツハイマー＞

231. β／A4タンパク質の細胞外への分泌におけるシグナル配列の役割について
……　宇佐美美穂子[1]、佐原成彦[1]、丸山　敬[2]、吉川和明[1]、吉岡　昇[1]、森　　啓[1]
（都精神研・分子生物[1]、都臨床研・遺伝情報[2]）

232. Identification of a Novel Amyloid Component (NAC) in Alzheimer's Disease
……上田健治
(Univ. of California San Diego Sch. of Medicine Dept. of Neurosciences)

233. 老化ラット髄液中キヌレニン濃度の特異的増加
……　和田博夫[1]、井藤英喜[2]、折茂　肇[1]、佐藤昭夫[3]
（東京大・医・老年病[1]、都老人医療セ[2]、都老人総合研[3]）

234. アルツハイマー病及びダウン症線維芽細胞におけるカルシウム動態の異常
……　楯林義孝、武田雅俊、柏木雄次郎、大河内正康、播口史朗、西村　健
（大阪大・医・精神）

235. アミロイド前駆体蛋白の糖鎖結合に関する検討
……　斉藤史明[1]、柳澤勝彦[1]、谷　昭義[2]、宮武　正[1]
（東京医科歯科大学・医・神経内科[1]、武田薬品㈱開拓第一研[2]）

236. アルツハイマー病・病態モデル －レセルピン投与ラット海馬におけるプロテインキナーゼCの細胞内局在の変化について（第2報）－
……　小町裕志[1]、柳澤勝彦[1]、白崎康文[2]、宮武　正[1]
（東京医科歯科大・医・神経内科[1]、第一製薬探索二研[2]）

237. アルツハイマー病における脳組織および脳脊髄液中の異常リン酸化タウの量について
……　工藤　喬[1]、Inge Grundke-Iqbal[2]、Khalid Iqbal[2]、武田雅俊[1]、以倉康充[1]、播口之朗[1]、西村　健[1]
（大阪大・医・精神[1]、New York State Institute for Basic Research[2]）

238. アルツハイマー病における脳脊髄液および脳組織中のユビキチン量の相関について
……　工藤　喬[1]、Inge Grundke-Iqbal[2]、Khalid Iqbal[2]、武田雅俊[1]、播口之朗[1]、西村　健[1]
（大阪大・医・精神[1]、New York State Institute for Basic Research[2]）

239. フォスファターゼ2B阻害剤による脳内細胞骨格蛋白の変化
－サイクロスポリンA投与ラット脳内のニューロフィラメントの変化－
……　田中稔久、武田雅俊、新川久義、金山　巌、工藤　喬、西村　健
（大阪大・医・精神）

240. 若年および老齢ラット脳のコリンアセチルトランスフェラーゼ活性の相違について
……　油布文枝、江頭　亨、山中康光
（大分医大・薬理）

241. ケイ酸アルミニウムのリポフスチンへの蓄積
……… 徳武　哲
（都精神研・分子生物）

242. マウスおよびラット加齢過程における脳内G蛋白質の遺伝子発現
……… 宮本　篤、木村永一、大鹿英世
（札幌医大・医・薬理）

243. ダウン症脳におけるアミロイドβ／A 4前駆体タンパクおよびそれに由来する成分の解析Ⅱ
……… 亀谷富由樹、田中喜久子、徳田隆彦
（都精神医学総合研・分子生物）

244. アルツハイマー型老年期痴呆におけるGTP結合蛋白質の量・機能について
……… 橋本恵理[1]、小澤寛樹[1]、齋藤利和[1]、八田慎一[2]、Peter Riederer[3]、大鹿英世[2]、高畑直彦[1]
（札幌医科大・医・神経精神[1]、薬理[2]、Wuerzburg大・精神[3]）

245. アミロイド前駆体蛋白mRNA発現に対するCiliary Neurotrophic Factorおよび血清除去の影響
……… 須藤慎治[1]、川上秀史[1]、三森康世[1]、太田光熙[2]、中村重信[1]
（広島大・医・第三内科[1]、国立療養所宇多野病院・臨床研[2]）

＜神経・精神疾患＞

246. 筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の脊髄および血清中トランスグルタミナーゼ（TG）活性
……… 藤田公和[1]、安藤正人[1]、青木則久[2]、安達一真[2]、永田　豊[1]、本多虔夫[3]
（藤田保衛大・医・生理[1]、脳神経外科[2]、横浜市民病院・神経内科[3]）

247. イミプラミンの脱分極依存性Ca^{2+}流入抑制効果の作用機序に関する検討
……… 清水雅美[1]、西田　朗[1]、岡本泰昌[2]、山脇成人[2]
（国立呉病院・臨床[1]、広島大・医・神経精神[2]）

248. メタンフェタミン逆耐性ラット側坐核ドパミン遊離に及ぼすオピオイド受容体調節の変化
－脳内透析法による検討－
……… 横尾秀康[1]、山田茂人[2]、吉田眞美[1]、田中隆彦[1]、溝口克弘[1]、江本浩幸[1]、古賀千尋[1]、石井秀夫[1]、石川経子[1]、田中正敏[1]
（久留米大・医・薬理[1]、脳研[2]）

249. PCRを用いての単純ヘルペス脳炎ウィルスの検出
……… 土居孝至[1]、溝渕睦彦[2]、村尾孝児[3]、武田良平[2]、柿本泰男[2]
（松山記念病院[1]、愛媛大・医・神経精神[2]、香川医大・第一内科[3]）

250. 筋緊張性ジストロフィー症患者リンパ球中のmyotonin protein kinase mRNAの分析
……… 溝渕睦彦[1]、武田良平[1]、土居孝至[2]、印南敏彦[1]、柿本泰男[1]
（愛媛大・医・神経精神[1]、松山記念病院[2]）

251. パーキンソン病患者における尿量の排泄異常
……… 溝渕睦彦、柿本泰男
（愛媛大・医・神経精神）

252. 新規セロトニン１A受容体作用薬MKC－242の性質
…… 吉川　崇[1]、松田敏夫[1]、田熊一浩[1]、鈴木　眞[1]、江川三生[2]、戸部昭広[3]、馬場明道[1]
（大阪大・薬・薬理[1]、三菱化成・医薬第一研[2]、臨床開発セ[3]）

253. ヒト脳腫瘍の近赤外励起フーリエ変換ラマン分光スペクトル
……… 水野有武[1]、北島具秀[2]、尾崎幸洋[3]
（慈恵医大・医化学[1]、脳外科[2]、関西学院・理学・化学[3]）

254. 抗うつ薬長期投与および電気けいれん処置のラット脳チューブリン重合に対する作用
…… 宮本聖也、朝倉幹雄、中西純一、塚本　徹、今福　淳、佐藤厚子、西崎　純、松井宏晃、伊野美幸、長田賢一、足立　淳、長谷川浩、長谷川和夫
（聖マリアンナ医大・神経精神）

255. 運動ニューロン病の基底核病変 －組織化学的検討－
…… 長谷川一子
（北里大東病院・神経内科）

256. 生体外から投与したニトロキシドラジカルの代謝に与えるイデベノンの影響について －L－バンドESR（電子スピン共鳴）法による研究－
…… 松本清治[1]、横山秀克[2]、石田信一[2]、森　則夫[2]、土橋宣昭[3]
（針生ケ丘病院[1]、福島県立医大・神経精神[2]、RI研究室[3]）

＜免疫組織化学＞

257. ウィスター系ラット臓器の血小板活性化因子（PAF）の局在
－蛍光抗体法によるPAF染色の開発－
…… 加藤僚子[1]、平島　豊[1]、遠藤俊郎[1]、唐沢　健[2]、野島庄七[2]、高久　晃[1]
（富山医薬大・医・脳神経外科[1]、帝京大・薬・薬品物理化学[2]）

258. ウシ脳ピリドキサルキナーゼの性質とウサギ脳内分布
…… 大川　清[1]、平河多恵[1]、城　謙輔[2]、朝倉　正[1]、松田　誠[1]
（慈恵医大・医化学[1]、病理[2]）

259. 抗fucosyl GM 1 モノクローナル抗体による脊髄・末梢神経の免疫組織化学的検討
…… 楠　　進[1]、千葉厚郎[1]、清水輝夫[2]、金澤一郎[1]
（東京大・医・神経内科[1]、帝京大・医・神経内科[2]）

260. 嗅覚系神経細胞に発現するSpot - 35/calbindin - D28k
－ラット発達過程における局在の変化－
…… 藤原　満[1]、中村英生[1]、中野雄一[1]、山国　徹[2]、高橋康夫[2]、桑野良三[3]
（新潟大・医・耳鼻[1]、脳研[2]、遺伝子実験[3]）

261. ヒト中脳腹側被蓋野に存在するL - DOPA免疫陽性細胞は辺縁系ドーパミン投射路にどのような役割を成しているか？ －高力価抗体を用いた免疫組織化学的検討－
…… 小森　薫[1・2]、中村　真[1]、山岡久也[1]、國見由佳理[1]、山岡功一[1・4]、藤田潔史[1・3]、内藤　宏[1]、伊藤哲彦[1]、笠原　嘉[1]、永津郁子[2]
（藤田保衛大・医・精神[1]、第二解剖[2]、メイヨークリニック[3]、神経科浜松病院[4]）

＜遺伝子発現＞

262. TRHによる下垂体初代培養細胞TSHβsubunit遺伝子発現の変化
…… 鯉淵典之、大竹英樹、山岡貞夫
（獨協医大・第一生理）

263. 脳におけるリアノジンレセプター／Ca^{2+}放出チャンネルサブタイプの遺伝子発現分布
…… 古玉大介[1・2]、古市貞一[1]、袴田康弘[3]、中井淳一[3]、竹島　浩[4]、御子柴克彦[1]
（東京大・医科研・化学[1]、大阪医大・第一内科[2]、京都大・医化学[3]、国際高等研・沼記念プロジェクト[4]）

264. 脳内endozepine（diazepam binding inhibitor）mRNA発現に及ぼすnicotineの影響について
…… 桂　昌司[1]、大熊誠太郎[1]、辻村　敦[2]、栗山欣彌[1・2]
（京都府立医大・薬理[1]、脳・血管老化セ[2]）

265. ミエリンプロテオリピッド蛋白質遺伝子ファミリーの存在
－軟骨魚類Chondrichthyes脳からの3種類のDM－20関連蛋白質の分子クローニング－
…… 北川一夫[1]、松本昌泰[1]、鎌田武信[1]、David R.Colman[2]
（大阪大・医・第一内科[1]、米国マウントサイナイ医大[2]）

266. 細胞接着分子L1の組織依存的な選択的スプライシングの同定
…… 武田泰生、阿相皓晃、三浦正幸、小林正明、植村慶一
（慶應義塾大・医・生理）

267. マウス2'、3' - Cyclic - Nucleotide 3' - Phosphodiesterase遺伝子のプロモーター領域の解析
…… 服部和枝、遠山陽子、栗原　正
（創価大・生命研・神経化学）

＜遺伝子操作＞

268. ラットPO cDNAを導入したtransgenicメダカと行動異常
…… 坪川達也[1]、宮崎勝己[2]、松本二郎[2]、植村慶一[1]
（慶應義塾大・医・生理[1]、生物[2]）

日本学術会議だより　No.28

「アジア学術会議(仮称)」の開催決まる

平成５年３月　日本学術会議広報委員会

「アジア学術会議(仮称)」の開催経費を含む日本学術会議の平成５年度予算が決まりましたので，その概要についてお知らせします。

平成５年度日本学術会議予算

日本学術会議の第15期活動計画の大きな柱である「学術研究の国際貢献の重視」の具体的方策の一環として，「アジア学術会議(仮称)」の開催が，平成５年度予算によって実現することとなりました。その内容は，学術研究が環境問題等の諸課題を克服し，人類の繁栄と世界の平和に寄与するとの認識に立って，本年秋に東京で，我が国と地理的・文化的に関係の深いアジア各国を代表する学術研究者が一堂に会して，各国における学術研究の現状，アジア地域における連携・協力のあり方などに関し意見を交換する場として開催するものです。我が国を含め10か国程度のアジア諸国から，代表者を招へいする予定です。

その他，平成５年度予算では，国際分担金の25団体に対する単価アップが認められ，国際会議の国内開催費については，アジア社会科学，植物科学，太平洋学術，電波科学，純粋・応用物理学，気象・水分，の６国際会議の開催を予定しています。また、世界各地で開催される学術関係国際会議への代表派遣や二国間交流に必要な経費が計上されております。

平成５年度予算概算決定額表は，下記のとおりであります。

（単位：千円）

事　　項	前年度予算額 A	平成５年度予算額 B	比較増△減額 C＝B－A	備　　考
日本学術会議の運営に必要な経費	1,042,482	1,095,827	53,345	対前年度比較 105.1%
審議関係費	248,789	265,525	16,736	○地球圏－生物圏国際協同研究計画(IGBP)シンポジウム，公開講演会等
国際学術交流関係費	198,514	221,254	22,740	
国際分担金	67,089	74,722	7,633	
国内開催	80,596	73,543	△ 7,053	
代表派遣	44,006	44,006	0	
二国間交流	6,823	6,823	0	
アジア学術会議	－	22,160	22,160	
会員推薦関係費	21,216	19,574	△ 1,642	
一般事務処理費	573,963	589,474	15,511	

日本学術会議第16期会員の推薦について

日本学術会議の会員は，従来，科学者を有権者とする直接選挙によって選出されていましたが，日本学術会議法の一部を改正する法律（昭和58年法律65号）により，第13期（昭和60年７月22日）から、学術研究団体を基盤とする推薦・任命制に改められました。来年７月で，この推薦制度も三期９年を経過することとなります。

この会員選出制度のあらましは，次のとおりです。

① 日本学術会議は，一定の要件を備える学術研究団体を，その申請により登録する。

② 登録学術研究団体は，その構成員である科学者のうちから，会員の候補者を選定し，及び会員の推薦に当たる推薦人を指名し，それぞれ，日本学術会議に届け出る。

③ 推薦人は，会員推薦管理会がその資格があると認定した会員の候補者のうちから，会員として推薦すべき者及び補欠の会員として推薦すべき者を決定し，日本学術会議を経由して内閣総理大臣に推薦する。

④ 内閣総理大臣は，上記③の推薦に基づいて，会員を任命する。

⑤ 学術研究団体の登録，会員の候補者の資格の認定その他会員の推薦に関する所要の事務は，日本学術会議に置かれる会員推薦管理会が行う。

以上の概要を第16期（平成６年７月－平成９年７月）の会員選出日程によると，次表のようになり，これに従って今後の事務処理が行われる予定になっています。

日本学術会議第16期会員選出手続日程

平成5年	5月31日(月)まで	学術研究団体の登録申請の締切り
	9月上旬	登録審査結果の通知
	不登録通知を受けた日の翌日から20日以内	不登録通知を受けた団体からの異議の申出受付
	9月上旬	関連研究連絡委員会についての意見聴取*
	10月下旬	〈団体関係〉異議の申出に対する決定
	11月30日(火)まで	関連研究連絡委員会の指定*
	12月上旬	会員の候補者の選定及び推薦人の指名の依頼
平成6年	1月31日(月)まで	会員の候補者の届出の締切り
	2月21日(月)まで	推薦人（予備者を含む）の届出の締切り
	3月20日(日)まで	会員の候補者の資格の認定等の通知
	3月下旬	推薦人に会議開催等の通知発送
	不認定通知を受けた日の翌日から20日以内	会員の候補者の資格の不認定通知を受けた学術研究団体又は会員の候補者からの異議の申出受付
	4月20日(水)まで	〈会員の候補者関係〉異議の申出に対する決定
	5月中旬から6月上旬まで	推薦人会議（会員及び補欠の会員として推薦すべき者を決定）
	6月中旬	日本学術会議を経由して内閣総理大臣へ推薦
	7月22日(金)	第16期日本学術会議会員の任命

注：＊は，日本学術会議会長が意見聴取し，指定する。

日学双書の刊行について

日本学術会議主催公開講演会及び公開シンポジウムの記録をもとに編集した，次の日学双書が刊行されました。

日学双書第15刊　「文明の選択－都市と農業・農村の共存を目指して－」
定価1,000円（消費税込み，送料240円）

日学双書第16刊　「子どもの人権を考える」
定価1,000円（消費税込み，送料240円）

日学双書第17刊　「首都機能の一極集中問題」
定価2,000円（消費税込み，送料310円）

（問い合わせ先）
〒106 東京都港区西麻布3-24-20
交通安全教育センター内
㈶日本学術協力財団
☎03-3403-9788

御意見・お問い合わせ等がありましたら，下記までお寄せください。
〒106 東京都港区六本木７-22-34
日本学術会議広報委員会　電話03(3403)6291

日本学術会議だより　No.29

「学術分野における国際貢献についての基本的提言」を採択

平成5年5月　日本学術会議広報委員会

日本学術会議は，去る4月21日から23日まで第116回総会を開催しました。今回の日本学術会議だよりでは，同総会の議事内容及び同総会で採択された「学術分野における国際貢献についての基本的提言」等についてお知らせいたします。

日本学術会議第116回総会報告

日本学術会議第116回総会（第15期・第5回）が，4月21日～23日の3日間にわたって開催された。

総会の初日の午前は，会長からの前回総会以降の経過報告に続いて，各部，各委員会等の報告が行われた。次いで，今回総会に提案されている2案件について，それぞれ提案説明がなされた後，質疑応答が行われた。

午後からも提案案件に対する質疑応答が行われた後，引き続き各部会が開催され，午前中に提案説明された総会提案案件の審議が行われた。

総会2日目の午前は，前日提案された2案件及び緊急に提案された1案件の審議・採決が順次行われた。

まず，「国際対応委員会の改組について(申合せ)」が採択された。これは，学術の国際化の急速な進展に伴い，国際学術団体及び国際学術協力事業への対応の重要性がますます増大してきており，日本学術会議としてもその職務を遂行する上で，学術の国際化に関する状況の迅速かつ的確な把握が不可欠であるという観点から，より広範囲にわたる国際学術情報の収集と，それに基づく適切な対応ができるよう，国際対応組織の充実強化を図るために，必要な措置を講じたものである。

次いで，「学術分野における国際貢献についての基本的提言」が採択された。本件については，日本学術会術第15期活動計画の中の重点目標として掲げられており，また，一昨年秋の第113回総会において内閣官房長官から，「学術研究の分野で我が国がどのような国際的貢献をなすべきかについて全学問領域から総合的に検討し，意見を出すよう」求められ，以来，日本学術会議における重要案件として鋭意審議してきたものである。

提言は，1．学術分野における国際貢献の意義，2．学術分野における国際貢献の在り方，3．学術分野における国際貢献を進めるための提案という構成内容になっており，日本学術会議は，今後とも，本提言に基づき，具体的な諸課題について検討していくこととしている。

最後に，上記の提言に基づき，日本学術会議は，国際貢献のための新しいシステムを構築するための具体的方策を直ちに検討し，その速やかな推進を図るという内容の「学術分野における国際貢献についての基本的提言に関する附帯決議」が採択された。

また，「学術分野における国際貢献についての基本的提言」に関する会長談話を22日付けで発表した。

午後からは，現在，常置委員会，特別委員会で審議されている懸案事項について，自由討議が行われた。

総会3日目は，午前は各特別委員会，午後は各常置委員会・国際対応委員会がそれぞれ開催された。

なお，近藤会長が，4月22日に河野内閣官房長官と，また，同27日に宮澤内閣総理大臣とそれぞれ会見し，「学術分野における国際貢献についての基本的提言」を手渡すとともに，同提言について報告した。

学術分野における国際貢献についての基本的提言（抜粋）

（前文略）

1．学術分野における国際貢献の意義

（本文略）

2．学術分野における国際貢献の在り方

（本文略。項目のみ）

(1) 対等・互恵の原則に基づいた国際学術協力の強化
(2) 国際学術協力の積極的発議等
(3) 人材育成への協力による国際貢献の推進
(4) 我が国の学術情報の提供・紹介の促進
(5) 学術に関する国際団体への対応強化

3．学術分野における国際貢献を進めるための提案

前節で述べた我が国の学術分野における国際貢献の在り方を踏まえ，これを推進していくために，以下の事項を提案する。

(1) 我が国からの情報提供機能等の充実・強化

① 学会の支援・育成

我が国の学会は，高等教育研究機関や産業界の研究成果の発表の場として重要な役割を果たしてきた。また，研究者相互の活発な国際交流等を通じて，情報の提供に努めているところである。しかしながら，ほとんどの学会は，資金の不足から，必要な活動も十分にできない状況にある。

学術分野における国際貢献という観点において，非政府機関（ＮＧＯ）としての学会の果たす役割は極めて大きく，それらが有する情報提供機能を最大限に発揮できるよう，学会の支援・育成を図る必要がある。

② アジア地域における学術研究に関する連携の強化

我が国と地理的・歴史的・文化的な関係の深いアジア地域の学術の発展に資するため，アジア地域の科学者や学術研究機関の間の学術研究ネットワークを拡充・強化することが必要である。また，将来的には，アジアの学術振興のための国際的な組織の在り方について，関係各国の科学者と協議していく必

要がある。

(2) 国際学術交流のための支援の充実

① 学術研究機関の整備等

新しい知識の創造と発展は，優れた研究者が集い，切磋琢磨するところから生まれるものであり，研究者の未知への挑戦に対して最も適切な施設・資金・支援システムなどの研究環境を提供することが必要である。したがって，全世界の研究者が日本で研究することに魅力を感じ，充実した研究生活が送れるように，学術研究機関の整備及び適切な運営を図るべきである。

② 来日研究者・留学生への支援の充実

学術分野における国際貢献の第一歩として，各国の人材育成への協力，とりわけ来日研究者・留学生の支援に十分な配慮がなされなければならない。したがって，内外における日本語教育の充実や，来日研究者・留学生の住居，日本人研究者・学生や地域の人々との交流を可能とする交流施設など生活・文化施設の整備・充実を早急に図るべきである。

③ 海外派遣研究者への支援の拡充

国際学術交流は，相手国の国情に応じた総合的配慮の下に行われる必要がある。したがって，その国の研究者との恒常的な連携・協力を維持するとともに我が国からの海外派遣研究者が必要とする各種情報の提供や連絡・調整などもできる人材の当該国への配置など，海外派遣研究者の支援体制の拡充を検討する必要がある。

(3) 学術分野における国際貢献のための新しいシステムの構築

国際的な学術協力については，我が国においても，既に多くの機関がその努力を重ねているところである。しかしながら，投入されている資金等そのための支援は，質・量ともに，未だ国際的な要求に応える水準にまで達しているとは言えない。しかも，現在個別に推進されている学術協力の相互の連絡・調整は，必ずしも十分ではなく，我が国の総力を挙げてこれを推進しているとは言えない状態にある。

また，今後ますます増えていくと思われる各種の国際的な学術協力プロジェクトの立案や協力，参加，推進については，これまで以上に，科学者の総意を反映しつつ，総合的かつ適切な判断を機動的になし得る場を確保しなければならない。

さらに，我が国が国際的な学術協力のための諸施策を強力に推進するためには，科学者の力のみならず，政府・産業界の協力，更には国民の理解等総合的な支援が必要である。

これらの問題点を改善し，学術分野において国際社会の期待に応える貢献をなし得るように，国民の理解の下に，諸課題の整理，必要な資金の確保・配分等を行う新しいシステム（例えば「学術協力機構」）を構築するなど，今後真剣に検討を進める必要がある。

終わりに

日本学術会議は，人類共通の資産としての学術の発展こそが人類の繁栄と世界の平和の礎となるとの見地から，本提言を取りまとめたものである。

なお，日本学術会議は，今後とも，本提言に基づき，内外の科学者を始め，広く関係各方面の意見を聴きながら，具体的な諸課題について引き続き検討していくことを付言したい。

平成５年(1993年)度共同主催国際会議

日本学術会議では，我が国において開催される学術関係国際会議のうち毎年おおむね６件について，学・協会と共同主催している。

本年もまた，６件の国際会議を共同主催することとしており，その概要は，次のとおりである。

◆第７回太平洋学術中間会議（６月27日～７月３日）

太平洋地域の住民の繁栄と福祉に直接関わる学術上の問題に関する研究を発展させるため，討論を行い，最新の研究情報を交換することを目的として宜野湾市（沖縄コンベンションセンター，沖縄都ホテル，メルパルク沖縄）において開催される。

参加予定人数500人（国外300人，国内200人）参加予定国数29か国。

◆第６回国際気象学大気物理学協会科学会議及び第４回国際水文科学協会科学会議合同国際会議（７月11日～23日）

気象学，大気物理学及び陸水・水文科学に関する研究を発展させるため，討論を行い，最新の研究情報を交換することを目的として横浜市（横浜国際平和会議場）において開催される。

参加予定人数1,500人（国外700人，国内800人），参加予定国数68か国。

◆第15回国際植物科学会議（８月23日～９月３日）

植物科学に関する研究を発展させるため，討論を行い，最新の研究情報を交換することを目的として横浜市（横浜国際平和会議場）において開催される。

参加予定人数4,000人（国外1,500人，国内2,500人），参加予定国数81か国。

◆第24回国際電波科学連合総会（８月23日～９月３日）

電波科学に関する研究を発展させるため，討論を行い，最新の研究情報を交換することを目的として京都市（国立京都国際会館）において開催される。

参加予定人数1,200人（国外800人，国内400人），参加予定国数49か国。

◆アジア社会科学研究協議会連盟第10回総会（９月５日～11日）

アジア・太平洋地域における社会科学の教育，研究，訓練及び普及を促進するため，討論を行い，最新の研究情報を交換することを目的として川崎市（かながわサイエンスパーク）において開催される。

参加予定人数120人（国外60人，国内60人），参加予定国数17か国。

◆第21回国際純粋・応用物理学連合総会（９月20日～25日）

物理学を発展させるため，討論を行い，最新の研究情報を交換することを目的として奈良市（奈良県新公会堂）において開催される。

参加予定人数300人（国外150人，国内150人），参加予定国数41か国。

御意見・お問い合わせ等がありましたら，下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会　電話03(3403)6291(代)

日本学術会議だより　No.30

アジア学術会議　11月に開催

平成５年10月　日本学術会議広報委員会

今回の日本学術会議だよりでは，アジア学術会議，本年６月に閣議了解を得ました平成６年度日本学術会議共同主催国際会議の概要及び日本学術会議が本年度において実施する地域活性化施策推進事業等についてお知らせします。

アジア学術会議について

1　日本学術会議は，アジア地域の各国を代表する科学者を東京に招き、本年11月15日（月）から18日（木）までの４日間，アジア学術会議を開催します。

2　アジア地域との学術分野における交流の重要性については，「学術分野における国際貢献についての基本的提言」（平成５年４月，日本学術会議第116回総会採択）においても指摘されたところですが（「日本学術会議だより」（No.29）参照），地理的，歴史的，文化的に多くの共通点を持つ近隣諸国間の交流は，それぞれの国の学術の発展，ひいてはその地域全体の学術の発展にとって極めて重要なことであります。

このことから，日本学術会議は，アジア地域の各国における学術研究の現状について情報交換を行うとともに，アジア地域における学術研究分野での連携・協力の在り方などについて討議し，併せてアジア地域の学術研究者間の相互理解と信頼を深めることを目的として，本年度からアジア学術会議を開催することとしました。

3　このアジア学術会議は，特定分野に限らない全学問領域にわたるアジア地域の科学者による連携・協力のための初の国際会議であり，その意義は極めて大きく，日本学術会議では，会議の成果をあげるため，既に本年４月，アジア学術会議実行委員会（委員長：渡邊格・日本学術会議副会長，副委員長：川田侃・同副会長）を設置し，関係学協会の御協力の下，開催に向け，鋭意，準備を進めているところです。

会議の概要は以下のとおりです。

(1)　主　催
日本学術会議

(2)　日　程
11月15日（月）開会式（基調講演，特別講演等）
歓迎レセプション
16日（火）会議（自由討議）
17日（水）視察（筑波研究学園都市）
18日（木）会議（自由討議），閉会式

(3)　会　場
三田共用会議所
［東京都港区三田２－１－８
電話 03－3455－7591］

(4)　参加者
インド，インドネシア，シンガポール，タイ，大韓民国，中華人民共和国，日本，フィリピン，マレイシアの各国の学術推進機関（アカデミー等）から推薦された人文・社会科学系及び自然科学系の科学者２１名（日本からは，近藤次郎日本学術会議会長及び川田侃同副会長が出席の予定）

(5)　議　題
「アジア地域における学術の発展とそのための連携・協力について」

平成５年度地域活性化施策推進事業の実施について
－地域の過去，現在，未来を探る－

東京一極集中を是正し，国土の均衡ある発展を図るため，地域を活性化することの必要性が叫ばれています。この中で，地域において，情報発信能力を高め，産業技術の進歩，暮らしの質的向上を促す総合的な学術研究の力の向上は，「豊かな国民生活」を実現するために不可欠のことであり，また，国際的に開かれた地域を形成するためにも有効なことと考えられます。このため，日本学術会議では，本年度において，国土庁の地域活性化施策推進費を活用して，全国３か所での地域における産学官の協力による公開フォーラムの実施とその報告書作成を柱とする“ふるさと学会”開催事業を実施することとしました。

本事業は，地域を対象とする学術研究の成果を人文，社会，自然科学を網羅して総合的に取りまとめ，その地域の過去の歴史，現在の状態，将来の予想を明らかにし，地域のアイデンティティーと将来像を考える一助とするとともに，この過程において，地域の産学官の連携や学術研究者と地域住民の交流をも促進することを狙いとするモデル事業と位置づけています。

平成６年度に開催する日本学術会議共同主催国際会議

日本学術会議は，昭和28年９月の国際理論物理学会議の開催以来，平成５年度までに135件の国際会議を関係の学術研究団体と共同して開催し，我が国のみならず世界の学術水準の向上に努めてきたところです。

平成６年度においても，次表の６会議を共同主催することとし，本年６月25日，これらの国際会議の開催とこれについて所要の措置を講ずる旨の閣議了解を得ました。

また，本年は，平成８年（1996年）度開催分の国際会議について共同主催の申請を受け付けており，締切りは12月10日です。

詳しくは，下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】
日本学術会議事務局学術部情報国際課国際会議係
電話03－3403－6291(内) 254，255

平成６年（1994年）度日本学術会議・国内学術研究団体共同主催国際会議概要

会議名	第８回国際神経・筋学会	第24回国際園芸学会議	第30回錯体化学国際会議
母体機関	世界神経連合	国際園芸学会	国際純正・応用化学連合
共催団体	日本神経学会	園芸学会	(社)日本化学会 錯体化学研究会
参加予定人数 参加予定国数	国外 1,100人 国内 800人 計 1,900人〔41か国・２地域〕	国外 1,000人 国内 750人 計 1,750人〔88か国・２地域〕	国外 300人 国内 700人 計 1,000人〔46か国・２地域〕
開催時期	７月10日～15日（６日間）	８月21日～27日（７日間）	７月24日～29日（６日間）
開催場所	京都市（国立京都国際会館）	京都市（国立京都国際会館）	京都市（国立京都国際会館）
開催間隔	４年ごと	４年ごと	１ないし２年ごと
組織委員会 委員長	国立精神・神経センター 名誉総長 里吉栄二郎	東京農業大学農学部 教授 岩田正利	(準備委員会代表者)立命館大学理工学部 教授 大瀧仁志

会議名	第21回世界心電学会	第47回国際情報ドキュメンテーション連盟総会	第２回国際病態生理学会総会
母体機関	世界心電学会	国際情報ドキュメンテーション連盟	国際病態生理学会
共催団体	日本心電学会 (財)日本心臓財団	(社)情報処理学会 (社)情報科学技術協会 情報知識学会	日本病態生理学会
参加予定人数 参加予定国数	国外 500人 国内 1,000人 計 1,500人〔30か国〕	国外 400人 国内 800人 計 1,200人〔55か国・１地域〕	国外 500人 国内 800人 計 1,300人〔62か国・２地域〕
開催時期	７月３日～７日（５日間）	10月２日～９日（８日間）	11月19日～24日（６日間）
開催場所	横浜市（横浜国際平和会議場）	大宮市（大宮ソニックシティ）	京都市（国立京都国際会館）
開催間隔	毎年	２年ごと	４年ごと
組織委員会 委員長	国立療養所中野病院 病院長 春見建一	国文学研究資料館 客員教授 藤原鎮男	日本臓器製薬株式会社生物活性科学研究所 所長 大村裕

日本学術会議主催公開講演会
―― 女性科学研究者に期待する ――

日本学術会議は，学術の成果を国民に直接還元するための活動として，日本学術会議会員が講師となって，市民を対象に年３回公開講演会を開催しています。

この度，次の公開講演会を開催しますので，お知らせします。多数の方々の御来場をお待ちしています。

(1) 日　時　　平成５年11月26日（金）13：00～16：30
(2) 会　場　　日本学術会議講堂
　　（地下鉄千代田線「乃木坂駅」下車徒歩１分）
(3) テーマ　　「女性科学研究者に期待する」
(4) 演題及び演者
- 女性科学研究者問題に関する日本学術会議の取組
　須藤　一（第５部会員，東北学院大学工学部教授）
- 女性学ジェンダー論の発展と役割
　加藤春恵子（第１部会員，東京女子大学現代文化学部教授）
- 自然科学分野に見られる女性進出とこれに伴う諸問題
　本間　慎（第６部会員，東京農工大学農学部教授）
- 女性科学研究者の地位向上と基盤整備（スウェーデンを例として）
　一番ケ瀬康子（第１部会員，日本女子大学人間社会学部長）

〔申込方法〕

聴講（入場無料）を希望される方は，はがきに，郵便番号，住所，氏名を明記し，11月12日までに下記あてお申し込みください（複数人の連記可，ＦＡＸ送付可）。締切り後も，席に余裕があれば，受け付けますので，下記あてお問い合わせください。

〒106 東京都港区六本木７－22－34
日本学術会議事務局「公開講演会係」
ＴＥＬ 03－3403－6291㈹　内線228
ＦＡＸ 03－3403－6224

「日本学術会議だより」について御意見・お問い合わせ等がありましたら，下記までお寄せください。
〒106 東京都港区六本木７-22-34
日本学術会議広報委員会　電話03(3403)6291

千里ライフサイエンスセミナーの御案内

1. 「幹細胞シリーズ第3回『食細胞系』」

日　時　平成6年1月21日（金）午前10時～午後5時

場　所　千里ライフサイエンスセンタービル5階ライフホール

コーディネータ

京都大学理学部教授　村松　繁

京都大学理学部助教授　稲葉　カヨ

プログラム

1. マクロファージ
   熊本大学医学部教授　高橋　潔
2. 破骨細胞
   明海大学歯学部教授　久米川正好
3. ミクログリア
   藤田保健衛生大学医学部講師　錫村　明生
4. 樹状細胞
   京都大学理学部助教授　稲葉　カヨ
5. 好中球
   山形大学医学部教授　仙道富士郎
6. 無脊椎動物の食細胞
   埼玉医科大学短期大学教授　和合　治久

2. 「ブレインサイエンスシリーズ」
第6回「脳と免疫のクロストーク」

日　時　平成6年3月11日（金）
午前10時～午後4時

場　所　千里ライフサイエンスセンタービル5階ライフホール

コーディネータ

大阪大学医学部教授　遠山　正彌

プログラム

1. 中枢神経系のサイトカインネットワーク
   藤田保健衛生大学医学部神経内科講師　錫村　明生
2. c-kit レセプターの神経系における機能
   名古屋大学理学部分子生物学科助手　平田たつみ
3. 神経・内分泌・免疫系のクロストーク
   東京都老人総合研究所免疫病理部部長　広川　勝昱
4. 気道アレルギーと神経ペプチド
   大阪大学医学部耳鼻咽喉科助手　武田　憲昭
5. 視床下部―交感神経系による免疫系の制御
   九州大学医学部生理学第一講座講師　片渕　俊彦

問合せ先

（財）千里ライフサイエンス振興財団「ブレインサイエンス」セミナー係

〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフサイエンスセンタービル

TEL. (06) 873-2001, FAX. (06) 873-2002

＊ 日本神経化学会 ＊

役　員　名　簿

【理事】

●任期：平成７年２月末日まで

理 事 長	植村	慶一（慶應義塾大・医・生理学）
会計担当	宮武	正（東京医科歯科大・医・神経内科）
	永津	俊治（藤田保健衛生大・総合医科学研究所・分子遺伝）
	小幡	邦彦（国立生理学研究所・神経化学）
	三木	直正（大阪大・医・薬理学）
	野村	靖幸（北海道大・薬・薬効学）

●任期：平成９年２月末日まで

	野口	鉄也（東邦大・医・生理学）
副理事長	宮本	英七（熊本大・医・薬理学）
	野村	正彦（埼玉医科大・生理学）
	竹田	稔（昭和大・医・生化学）
庶務担当	加藤	尚彦（横浜市立大・医・生化学）
出版広報担当	畠中	寛（大阪大・蛋白質研究所・蛋白質生合成）

●補充理事（任期：平成７年２月末日まで）

融	道男（東京医科歯科大・医・神経精神科学）
佐武	明（新潟大・脳研究所・神経化学）
加藤	泰治（名古屋市立大・医・分子医学研究所・生体制御）

【監事】

●任期：平成９年１０月（総会終了）まで

柿本	泰男（愛媛大・医・神経精神医学）
黒川	正則（東京都精神医学総合研究所）

＊ 日本神経化学会 委員会名簿 ＊

（任期：平成7年2月末日まで）

【科研費調査委員会】

★委員長　竹田　稔（昭和大・医・生化学）
阿部　輝雄（新潟大・脳研究所・神経化学）
笠井　久隆（都立医療技術短大・生化学）
加藤　泰治（名古屋市立大・医・分子医学研究所・生体制御）
加藤　武（横浜市立大・大学院・総合理学研究科・分子認識）
北村　邦男（埼玉医科大・生理学）
熊倉鴻之助（上智大・生命科学研究所）
高坂　新一（国立精神・神経センター・神経研究所・代謝研究部）
小宮　義璋（群馬大・医・分子病態学）
佐武　明（新潟大・脳研究所・神経化学）
高橋　正身（三菱化成生命科学研究所・脳神経科学部）
宮本　英七（熊本大・医・薬理学）

【研究助成金等候補者選考委員会】

★委員長　三木　直正（大阪大・医・薬理学）
小幡　邦彦（国立生理学研究所・神経化学）
西村　健（大阪大・医・精神医学）
芳賀　達也（東京大・医・脳研究施設）
東田　陽博（金沢大・医・神経情報研究施設・神経物性）
御子柴克彦（東京大・医科学研究所）
宮武　正（東京医科歯科大・医・神経内科）

【国際対応委員会】

★委員長　栗山　欣弥（京都府立医科大・薬理学）
植村　慶一（慶應義塾大・医・生理学）
小幡　邦彦（国立生理学研究所・神経化学）
加藤　泰治（名古屋市立大・医・分子医学研究所・生体制御）
加藤　尚彦（横浜市立大・医・生化学）
高坂　新一（国立精神・神経センター・神経研究所・代謝研究部）
融　道男（東京医科歯科大・医・神経精神科学）
中嶋　照夫（京都府立医大・精神医学）
永津　俊治（藤田保健衛生大・総合医科学研究所・分子遺伝）
鍋島　俊隆（名古屋大・医学部附属病院・薬剤部）
西村　健（大阪大・医・精神医学）
野村　靖幸（北海道大・薬・薬効学）
芳賀　達也（東京大・医・脳研究施設）
畠中　寛（大阪大・蛋白質研究所・蛋白質生合成）
三木　直正（大阪大・医・薬理学）
御子柴克彦（東京大・医科学研究所）
宮武　正（東京医科歯科大・医・神経内科）
宮本　英七（熊本大・医・薬理学）
山上　栄（大阪市大・医・神経精神医学）
山脇　成人（広島大・医・神経精神医学）

日本神経化学会評議員名簿

阿部　輝雄（新潟大・脳研・神経化学）
阿部　敏明（帝京大・医・小児科）
秋山　一文（岡山大・医・神経精神医学）
天野　武彦（三菱化成生命研）
安藤　正人（藤田保衛大・医・生理学）
安藤　　進（都老人研・生化学）
麻川　武雄（佐賀医大・薬理学）
朝倉　幹雄（聖マリ医大・神経精神科学）
浅野　富子（愛知県コロニー）
阿相　皓晃（慶應大・医・生理学）
馬場　明道（大阪大・薬・薬理学）
出口　武夫（㈱ビー・エム・エル・基礎研）
衛藤　義勝（慈恵医大・小児科）
藤沢　　仁（旭川医大・生化学）
藤田　　忍（三菱化成生命研）
福永　浩司（熊本大・医・薬理学）
古川　昭栄（岐阜薬大・分子生物学）
芳賀　達也（東京大・医・脳研）
飯田　静夫（東医歯大・医・生化学）
長谷川和夫（聖マリ医大・神経精神科）
畠中　　寛（大阪大・蛋白研）
鳩谷　　龍（水口病院）
早石　　修（大阪バイオサイエンス研究所）
林　　浩平（茨城大学）
林　　恭三（岐阜薬大・分子生物学）
挾間　秀文（鳥取大・医・神経精神医学）
日高　弘義（名古屋大・医・薬理学）
東田　陽博（金沢大・医・神経情報研）
樋口　宗史（大阪大・医・薬理学）
平野　修助（東邦大・医・生理学）
市山　　新（浜松医大・生化学）
井原　康夫（東京大・医・脳研）
井上　和秀（国立衛生試験所・薬理部）
井上　順雄（横浜市大・医・生化学）
石川　紘一（日本大・医・薬理学）
礒辺　俊明（都立大・理・生物化学）
伊藤　仁一（名古屋市大・医・生化学）
門田　　健（都精神研・神経化学）
柿本　泰男（愛媛大・医・神経精神医学）
神谷　大雄（福岡大・薬・薬理学）
鴨下　重彦（東京大・医・小児科）
金松　知幸（創価大・生命科学研）
金戸　　洋（長崎大・薬・薬物学）
假屋　哲彦（山梨医大・精神神経医学）
笠井　久隆（都医療技術短大・生化学）
片岡　喜由（愛媛大・医・生理学）
加藤　兼房（愛知県コロニー）
加藤　伸勝（都立松沢病院）
加藤　隆一（慶應大・医・薬理学）
加藤　　聖（金沢大・医・神経情報研）
加藤　泰治（名古屋市大・医・分子研）
加藤　尚彦（横浜市大・医・生化学）
加藤　　武（横浜市大・総合理学研）
川北　幸男（久米田病院）
城戸　　亮（和歌山県医大・生化学）
杵鞭　宏育（石巻専修大・理工・生物化学）
北村　邦男（埼玉医大・生理学）
鬼頭　昭三（放送大）
小林　清史（白壁スポーツクリニック）
小暮　久也（東北大・医・神経内科）
高坂　睦年（岡山大・医）
高坂　新一（国立精神神経センター）
小池　達郎（佐賀医大・教養・化学）
小宮　義璋（群馬大・医・分子病態学）
小山　　司（北海道大学・医・精神医学）
熊倉鴻之助（上智大・生命科学研）
熊代　　永（白河厚生総合病院・精神科）
公文　　明（佐賀医大・生化学）
郭　　哲輝（大阪大・医・薬理学）
栗原　　正（創価大・生命科学研）
栗岡　　晋（慈恵医大・医科研・生化学）
栗山　欣弥（京都府医大・薬理）
黒田洋一郎（都神経研）
黒川　正則（都精神研）
桑野　良三（新潟大・遺伝子実験施設）
町山　幸輝（群馬大・医・神経精神医学）
松田　　誠（慈恵医大・医化学）
松井　英男（杏林大・医・生化学）
松谷天星丸（川村学園女子大）
三木　直正（大阪大・医・薬理学）
御子柴克彦（東京大・医科研）
三浦　貞則（北里大・医・精神科学）
三宅　正治（神戸学院大・薬・生理化学）
宮本　英七（熊本大・医・薬理学）
宮本　侃治（松風荘病院）
宮田　　健（熊本大・薬・薬物活性学）
宮武　　正（東医歯大・医・神経内科）
溝部　文夫（大正製薬㈱・総合研）
溝渕　睦彦（愛媛大・医・神経精神医学）
森　　昭胤（岡山大・医・分子細胞医研）
森　　啓（都精神研・分子生物）
森　　浩一（大阪医療刑務所）
森　　則夫（福島県医大・神経精神医学）
永井　克孝（都臨床研）
長池　一博（三菱化成総研）
永田　　豊（藤田保衛大・医・生理学）
永津　郁子（藤田保衛大・医・解剖学）
永津　俊治（藤田保衛大・総合医科研）
中嶋　一行（国立精神神経センター）
中嶋　照夫（京都府医大・精神医学）
中村　陸郎（都府中療育センター）
中村　泰治（昭和大・薬・生物化学）

（平成５年１０月２６日　総会承認分／任期：平成９年総会終了迄）

仲田　義啓（広島大・医・薬効解析科学）
中谷　一泰（昭和大・薬・生物化学）
中山　　孝（横浜市大・医・生化学）
中沢　欽哉（愛知医大・精神科学）
中澤　恒幸（都済生会中央病院）
直井　　信（名古屋工大・工）
成瀬　　浩（杏林大・医・小児科）
西村　千尋（国立小児病院・小児薬理）
西村　　健（大阪大・医・精神医学）
西塚　泰美（神戸大・医・生化学）
丹羽　正美（長崎大・医・薬理学）
野口　鉄也（東邦大・医・生理学）
野村　正彦（埼玉医大・生理学）
野村　靖幸（北海道大・薬・薬効学）
能登　　直（京都府医大・精神医学）
小幡　邦彦（国立生理研・神経化学）
小笠原信明（愛知県コロニー）
小川　紀雄（岡山大・医・分子細胞医研）
荻田喜代一（摂南大・薬・薬理学）
小倉　明彦（大阪大・理・生物学）
大熊誠太郎（京都府医大・薬理学）
大鹿　英世（札幌医大・薬理学）
岡田　安弘（神戸大・医・生理学）
奥山　典生（神奈川歯大・教養化学）
大西　　博（大阪市大・医・神経精神医学）
大平　敦彦（愛知県コロニー）
大月　三郎（慈圭会精神医学研）
尾崎　正若（東亜大・大学院・学術研）
斎藤　喜八（大阪大・歯・薬理学）
斉藤　昌之（北海道大・獣医・家畜生化学）
斎藤　章二（日本大・医・総研）
佐野　　輝（愛媛大・医・神経精神医学）
佐野　　護（愛知県コロニー）
更井　啓介（ｸﾘﾆｯｸｾﾝﾀｰ サライ神経科）
佐武　　明（新潟大・脳研・神経化学）
佐藤　公道（京都大・薬・分子作用制御学）
佐藤　光源（東北大・医・精神医学）
佐藤　修三（新潟大・脳研・神経内科）
瀬川　富朗（広島大・医・薬効解析科学）
仙波　禮治（三重大・医・解剖学）
仙波りつ子（愛知県コロニー）
嶋津　　孝（愛媛大・医・医化学）
清水　宏俊（横浜舞岡病院）
白尾　智明（群馬大・医・行動分析学）
庄盛　敏廉（岡山大・医・神経内科）
祖父江憲治（大阪大・医・バイオ研）
反町　　勝（鹿児島大・医・生理学）
須田　治彦（都医療技術短大・作業療法科）
鈴木　　修（浜松医大・法医学）
鈴木　龍雄（名古屋市大・医・生化学）
田渕　和雄（佐賀医大・脳神経外科）
田口　淳一（京都府医大・解剖学）
高垣玄吉郎（慶應義塾大学）
高橋　正身（三菱化成生命研）
高橋　康夫（新潟大・脳研・神経薬理学）
高松　　研（東邦大・医・生理学）
高野　行夫（福岡大・薬・薬理学）
竹田　　稔（昭和大・医・生化学）
竹下　正純（大分医大・生化学）
武富　　保（信州大・医・心脈管病研）
竹内　　宏（岐阜大・医・生理学）
玉井　洋一（北里大・医・生化学）
田中千賀子（神戸大・医・薬理学）
田中　正敏（久留米大・医・薬理学）
田中　　亮（名古屋市大・医・生化学）
谷口　和覧（国立大阪病院・精神神経科）
田代　朋子（群馬大・医・分子病態学）
遠山　正彌（大阪大・医・解剖学）
融　　道男（東医歯大・医・神経精神医学）
戸谷　重雄（慶應大・医・脳神経外科）
辻　　省次（新潟大・脳研・神経内科）
塚田　裕三（慶應大・医・生理学）
内田　修次（日本 ﾍﾞｰﾘﾝｶﾞｰｲﾝｹﾞﾙﾊｲﾑ㈱）
内村　英幸（国立肥前療養所）
植村　慶一（慶應大・医・生理学）
宇尾野公義（国立静岡病院）
和田　　博（大阪大・医・薬理学）
渡辺　建彦（東北大・医・薬理学）
山上　　栄（大阪市大・医・神経精神医学）
山口　知子（東女医大・生化学）
山川　民夫（東京薬科大）
山本長三郎（金沢大・医・生理学）
山本　秀幸（熊本大・医・薬理学）
山内　　卓（徳島大・薬・生化学）
柳澤　勝彦（東医歯大・医・神経内科）
横山　和仁（東京大・医・公衆衛生）
米田　幸雄（摂南大・薬・薬理学）
吉田　　博（大阪国際女子大）
吉川　和明（都神経研）

以上　１９１名

※評議員就任については現在ご本人のご意向を伺っております。従いましてこの評議員リストは総会で選任された評議員リストとなりますことを予めご了承願います。

賛　助　会　員

機　関　名		所　在　地	電　話
味の素㈱総務部企画グループ	〒104	中央区京橋 1-15-1	
エーザイ㈱企画部	〒112	文京区小石川 5-5-5	
三共㈱医薬開発第二部	〒104	中央区築地 1-13-13　北水ビル	☎03-5565-2962
サンド薬品㈱医薬情報センター	〒106	港区西麻布 4-17-30　西麻布三井ビルディング	☎03-3797-8699
塩野義製薬㈱研究所神崎川分室	〒561	豊中市二葉町 3-1-1	☎06-331-8081
田辺製薬㈱医薬事業部	〒541	大阪市中央区道修町 3-2-10	☎06-205-5391
第一製薬㈱東京研究開発センター	〒134	江戸川区北葛西 1-16-13	☎03-3680-0151
大日本製薬㈱薬事部	〒541	大阪市中央区道修町 2-6-8	
㈱トミー精工経営企画部販売企画課	〒179	練馬区旭町 2-2-12	☎03-3976-3111
藤沢薬品工業㈱研究開発管理室	〒532	大阪市淀川区加島 2-1-6	
㈱三菱化成生命科学研究所図書室	〒194	町田市南大谷 11	☎0427-24-6282
持田製薬㈱富士中央研究所図書室	〒412	御殿場市神場字上ノ原 722	☎0550-89-7881
山之内製薬㈱学術情報部部長	〒103	中央区日本橋本町 2-3-11	

日本神経化学会会則

日本神経化学会会則

文部省科学研究費審査委員候補者
推薦方法

文部省科学研究費審査委員候補者選挙に
関する内規

日本神経化学会会則

（昭和40年10月8日改正）
（昭和45年10月17日改正）
（昭和50年11月15日改正）
（昭和51年10月16日改正）
（昭和55年11月14日改正）
（昭和56年11月27日改正）
（昭和57年11月14日改正）
（昭和59年11月17日改正）
（昭和62年10月29日改正）
（昭和63年10月27日改正）
（平成3年10月15日改正）
（平成4年10月21日改正）
（平成5年10月26日改正）

第1章 総　　則

第1条 本会は日本神経化学会（The Japanese Neurochemical Society）という。

第2条 本会の事務所を東京都文京区本駒込5－16－9　財団法人日本学会事務センター内におく。

第3条 本会は理事会の議決を経て必要の地に支部をおくことができる。

第2章 目的および事業

第4条 本会は会員の研究発表，知識の交換ならびに会員相互間および国内外の関連機関との連絡提携の場として神経化学ならびに関連領域の発展を促しもって学術文化の進歩に寄与することを目的とする。

第5条 前条の目的を達成するために次の事業を行なう。

1. 研究発表会（大会）および講演会の開催
2. 会誌，研究報告および資料の刊行
3. 国内外の関連機関との連絡および協力
4. その他目的を達するための必要な事業

第3章 会　　員

第6条 本会の会員は次のとおりとする。

1. 正 会 員：神経化学に関する学識または経験を有するもので本会の目的に賛同し，会費年額7,000円を納める者。
2. 名誉会員：本会に特に功労のあった正会員（外国人は正会員であることを要しない）のうちから別に定める細則により総会の議決をもって推薦する者。ただし名誉会員は会費を納めることを必要としない。
3. 団体会員：本会の目的に賛同し会費年額7,000円を納める団体(図書館を含む)。
4. 賛助会員：本会の事業を後援し，会費年額20,000円以上を納める者または団体。
5. 学生会員：大学またはこれに準ずる学校（大学院を含まず）に在籍し，神経化学に関係ある学科を修める学生であって，本会の目的に賛同し会費年額5,000円を納める者。

第7条 会員になろうとする者は正会員の推薦により細則に示す様式に従い会費を添えて入会申込書を事務局に提出し理事長の承認を受けなければならない。

第8条 会員は毎年開かれる研究発表に演題の申込みをすることができる。

第9条 会員は本会が刊行する機関誌「神経化学」(大会論文集を含む）の配布を受ける。

第10条 会員は第6条に規定する会費を納入しなければならない。

第11条 会員は次の事由によって資格を喪失する。

1. 退　　会
2. 死　　亡
3. 除　　名

第12条 会員で退会しようとするものは，退会届を提出しなければならない。

第13条 会員が次の各号の一に該当するときは，理事会の議決を経て除名される。

1. 会費を滞納したとき
2. 本会の名誉を傷つけ，また会員としての

義務に反したとき

第１４条　既納の会費は，いかなる理由があってもこれを返還しない。

第４章　役員，評議員および職員

第１５条　本会に次の役員をおく。

理　　事　　１５名
監　　事　　２名

第１６条　理事および監事は細則の定める方法に従って正会員から選出する。理事は互選で理事長１名，副理事長１名を定める。

第１７条　理事長は本会の業務を総理し，本会を代表する。

2.　副理事長は理事長を補佐し，理事会及び総会の決議した事項を処理する。

3.　副理事長は理事長事故のあるときはその職務を代行する。

第１８条　理事は，理事会を組織し，会則に定めるもののほか，本会の総会の権限に属せしめられた事項以外の事項を議決し執行する。

第１９条　監事は民法第５９条に準じてその職務を行なう。

第２０条　本会の理事で会員の選挙により選出されたものの任期は４年とし，任期終了後２年間は再任されない。理事会により選出された理事の任期は２年とし，重任されない。

監事の任期は４年とし，任期終了後４年間は再任されない。在任中の監事は，理事となることは出来ない。

2.　補欠による役員の任期は，前任者または現任者の残任期間とする。

3.　役員は，その任期満了後でも後任者が就任するまでは，なおその職務を行なう。

4.　役員は本会の役員としてふさわしくない行為のあった場合，または特別の事情のある場合には，その任期中であっても総会および理事会の議決により，理事長がこれを解任することができる。

第２１条　本会に評議員をおく。

2.　評議員の定数は50名及至250名とする。

3.　評議員は正会員中から総会において選任する。

4.　理事はその任期中は評議員となる。

5.　新規評議員の選任は，別に定める細則の手続きを必要とする。

第２２条　評議員の任期は４年とし，再任を妨げない。評議員には第２０条，2．3．4．項の規定を準用する。

第２３条　評議員は評議員会を組織し，本会の運営上の重要事項について理事会の諮問に応ずるものとする。

第２４条　本会の事務を処理するため職員をおくことが出来る。

2.　職員は理事長が任免し理事会の承認をうける。

3.　職員は有給とすることが出来る。

第５章　会　　議

第２５条　理事会は毎年二回理事長が招集する。ただし理事長が必要と認めた場合，或いは理事現在数の三分の一以上から会議の目的たる事項を示して請求のあったときは，理事長は臨時理事会を招集しなければならない。

第２６条　理事会は理事現在数の五分の三以上出席しなければ議事を開き議決することは出来ない。ただし委任状を提出したものは出席者とみなす。

2.　理事会の議事は理事会の過半数をもって決し，可否同数のときは議長の決するところによる。

第２７条　通常総会および大会（研究発表会）の担当機関（施設）および大会世話人代表は理事会において指定する。

2.　大会世話人代表は大会の開催にあたり，当該地区会員の中から世話人を指名し，世話人会を組織する。

3.　大会世話人代表はその年度中理事会に出席する。

第２８条　通常総会は毎年１回研究発表会の際，理事長が招集する。

2.　臨時総会は理事会または監事が必要と認めたとき，いつでも招集することができる。

第２９条　通常総会の議長は大会世話人代表とし，臨時総会の議長は会議のつど会員の互選

で定める。

第３０条　総会の招集は少なくとも１０日以前にその審議すべき事項，日時および場所を記載した書面または会誌の公告をもって通知する。

第３１条　次の事項は，通常総会に提出しその承認を受けなければならない。

1. 事業計画および収支予算についての事項
2. 事業報告および収支決算についての事項
3. その他理事会において必要と認めた事項

第３２条　総会は，会員現在数の十分の一以上出席しなければその議事を開き議決することが出来ない。ただし当該議事につき委任状を提出したものは出席者とみなす。

第３３条　総会の議事は出席者の過半数をもって決し，可否同数のときは議長の決するところによる。

第３４条　総会の議事の要項および議決した事項は会員に通知する。

第３５条　評議員会は随時理事長が招集する。評議員会の議長は理事長がこれに当る。

第３６条　評議員会は評議員現在数の五分の一以上出席しなければ会議を開くことが出来ない。ただし委任状を提出したものは出席者とみなす。

第３７条　総会，理事会および評議員会の議事録は議長が作成し理事長が保管する。

第６章　会　　計

第３８条　本会の事業遂行に要する費用は，会費，事業に伴う収入をもって支弁する。

第３９条　本会の収支決算は毎年会計年度の終了後理事長が作成し，監事の意見をつけ理事会および総会の承認を受けなければならない。

第４０条　本会の会計年度は毎年１月１日に始まり１２月３１日迄とする。

第７章　会則の変更

第４１条　この会則は理事会および総会においておのおの三分の二以上の賛成決議を経て変更することが出来る。

第８章　補　　則

第４２条　この会則施行についての細則は，理事会および総会の議決を経て別に定める。

第９章　付　　則

第４３条　新総会発足以前の役員，評議員は現神経化学懇話会常任委員及び委員により代行される。

第４４条　現会員はそのまま本会の会員となる。

第４５条　会計年度の改定は昭和５６年１月１日より実施す。

第４６条　昭和５５年度会費として納入したもの（昭和５４年９月１日～昭和５５年８月３１日迄）は昭和５５年１２月３１日迄有効期限を延長する。

第４７条　昭和５６年度までの正会員及び団体会員の会費は年額２，５００円とする。

日本神経化学会細則

（昭和４１年１０月　８日制定）
（昭和５１年１０月１６日改正）
（昭和５９年１１月１７日改正）
（平成　３年１０月１５日改正）

第1章　会　　員

第　１　条　本会に会員として入会を希望する者は入会申込書に次のことがらを記入して事務局に提出しなければならに。

1. 姓名（ローマ字付）生年月日
2. 推薦者指名印
3. 最終出身校，学科名および卒業年次。ただし学生会員になろうとするものは入学年月日を記入し，在学証明書の写しを添付する。
4. 勤務先とその所在地および勤務先での地位
5. 会員の現住所ならびに連絡先住所
6. 専攻分野

第2章　役員，評議員，名誉会員

第　２　条　理事定数１５名のうち１２名は細則第３条及び第４条に定める方法に従い，会員の直接選挙により選出する。残り３名は専門別，地域別を考慮して理事会で選定し，評議員会の議を経て委嘱する。この３名は２年毎に理事会で選定する。理事選挙は２年ごとに６名の改選を行う。理事は就任する時期に満６５才までのものとする。

第　３　条　理事の選挙に当って選挙管理委員会を設け委員は正会員の中から理事長が委嘱する。選挙管理委員会は理事選挙要項に従い事務局の所在地で選挙事務を行う。

第　４　条　理事選挙要項は下記の如くする。

1. 選挙管理委員会は事前に会員名簿を作成して「神経化学」に掲載する。理事の選挙権及び被選挙権は投票締切日の６カ月以前に正会員となったものに限る。
2. 正会員で選挙事務に異議あるものは投票締切日の１０日前までに選挙管理委員会に申し出なければならない。
3. 選挙管理委員会は正会員２名以上の推薦のあった正会員および評議員（但し理事被選挙権者のみ）をもって理事候補者名簿を作成し，会員に配布し，投票の資料とする。
4. 投票は選挙管理委員会の定める投票用紙をもって行い無記名３名以内の連記とする。
5. 投票は郵送をもって行う。
6. 当選者は得票数の多い上位から６名を決定する。同票の場合は年令順とする。
7. 当選者が辞退し，又は選挙終了後１年未満の期間内に理事に欠員を生じた場合は得票数及び専門別を考慮して理事会において補充を決定する。
8. 選挙後１年以上経過した後理事に欠員を生じた場合は補充を行なわない。但し３名以上の欠員を生じた場合は６ヶ月以内に補充選挙を行うものとする。
9. 開票は選挙管理委員会が会員の中から委嘱した立会人のもとに行う。ただし会員は誰でも開票に立会うことが出来る。

第　５　条　理事長，副理事長は理事会の互選により決める。任期は２年とし重任を妨げない。

第　６　条　新規に評議員を申請する者については，次の方法により選出する。

申請者は，研究歴・会員歴満５年以上で，評議員２名以上の推薦を必要とし，履歴書・業績目録を添付の上，理事長に提出する。

理事長はこれに基づき，理事会において審査し，適格者は総会において選任される。

第　７　条　監事の選出については理事会が理事以外の正会員の中から候補者を選び総会の承認を経て理事長が委嘱する。

第 8 条 名誉会員は，次の1項に掲げるもののいずれかの資格を有する場合，2項の手続きを経て総会の議決をもって推薦される。

1. 資格
   (1) 永年，会員として本会に多大な貢献をした者で，原則として満65歳以上であること。
   (2) 神経化学領域で学術的に特に顕著な業績をあげた者（外国人を含む）。
2. 手続き
   (1) 理事または監事を経験した者2名以上による推薦書（本学会への貢献度を示すもの）と履歴書，業績目録（10篇以内）を添えて，理事長に提出する。
   (2) 理事長はこれを理事会で審議し，候補者を総会へ推薦する。

第3章 事 業

第 9 条 機関誌「神経化学」の編集委員は理事会の承認を得て理事長より委嘱する。

第10条 機関誌の英文名は「Bulletin of The Japanese Neurochemical Society」とする。

第11条 本会の目的を達成するため理事会が必要と認めた時，会員の中から専門委員を委嘱し，委員会を構成することが出来る。

委員の任期は2年とし，原則として再任を妨げない。

第4章 付 則

第12条 昭和59年11月の会則及び細則変更後に行われる最初の理事選挙に限り，会則第20条及び細則第2条，第4条の規定にかかわらず，次の特例を設ける。

1. 投票期日の〆切を昭和60年2月16日とする。
2. 今回の選挙にあたっては被選挙権者に現理事を含むものとし，得票順に12名の当選者を決定する。投票は無記名6名以内の連記として郵送をもって行う。
3. 当選者のうち得票数上位6名のものの任期は4年とし，下位6名のものは2年とする。
4. 今回の当選理事の任期は上位6名のものについては昭和64年2月迄，また下位6名のものについては昭和62年2月迄とし，重任されない。理事会で選ばれる3名の理事の任期は昭和62年2月迄とし，重任することは出来ない。

日本神経化学会

文部省科学研究費審査委員候補者推薦方法

1　第1段審査委員候補者

(1)　日本神経化学会（以下「学会」という）から日本学術会議へ推薦する委員候補者数は，割り当てられる数の2倍とし順位を付けて提出する。

(2)　委員候補適任者は学会正会員で，研究者番号を有し，かつ，文部省科学研究費申請資格のある者（以下「有資格者」という）2名以上の推薦により有資格者の中から選出する。この際，委員候補適任者の数が上記割り当て数の2倍以下である場合，又は，分野構成等で問題がある場合は，理事会で理事2名以上の推薦をもって委員候補適任者を補充する。

(3)　委員候補者は委員候補適任者のうちから，全有資格者の選挙により選出する。選挙の結果は公表されない。

2　第2段　審査委員候補者

(1)　学会から日本学術会議へ推薦する委員候補者は，割り当てられる数の2倍とし順位をつけて提出する。

(2)　委員候補適任者は，理事会が第1段審査委員候補適任者を参考にして有資格者の中から選出する。

(3)　委員候補適任者の数は，割り当てられた数の3倍が望ましい。

(4)　委員候補者は，委員候補適任者の中から，有資格者である学会評議員の選挙により選出し，順位を付けて日本学術会議に推薦する。選挙の結果は公表されない。

3　委員の任期

委員の任期は2年とし，委員の任期終了後引き続いて次期の第1段又は第2段審査委員候補者に選出されない。

4　選挙

委員候補者の選挙は，「日本神経化学会文部省科学研究費審査委員候補者選挙に関する内規」に従って投票により行う。

5　本推薦方法および内規の見直し

必要に応じて理事会において行う。

日本神経化学会

文部省科学研究費審査委員候補者選挙に関する内規

（平成5年10月26日改正）

審査委員候補者の選挙は下記の要領に従って行う。

1　選挙にあたって選挙管理委員会を設け，その委員は日本神経化学会正会員で研究者番号を有し，かつ，文部省科学研究費申請資格のある者（以下「有資格者」という）のなかから理事長が委嘱する。

2　選挙管理委員会は，選挙に先立って，有資格者又は理事会から推薦を受けた文部省科学研究費審査委員候補適任者の名簿を作成する。

3　第1段審査委員候補適任者は，有資格者2名以上の推薦又は理事会で理事2名以上の推薦を受けた有資格者とする。

4　第2段審査委員候補適任者は，理事全員の選挙に基き理事会の推薦を受けた有資格者とする。

5　第2段審査委員候補適任者は，第1段審査委員候補適任者を兼ねることはできない。

6　第1段審査委員候補者の選挙人は，全有資格者とする。

7　第2段審査委員候補者の選挙人は，有資格者のうち学会評議員とする。

8　選挙人及び審査委員候補適任者は，投票締め切り日の6か月以前に正会員となった有資格者に限る。

9　第1段及び第2段審査委員候補適任者の投票は，選挙管理委員会の定める投票用紙を用い，それぞれ単記無記名とする。

10　投票にあたっては外封筒に氏名の他に研究者番号を記入することとし，この記入のないものは無効とする。

11　投票は郵送をもって行う。

12　第1段及び第2段審査委員候補者の数は，日本学術会議から割り当てられた数の2倍とし，次点者を含め得票の多い上位から順位をつける。同票の場合は生年月日の若いものから順位をつける。

13　開票は選挙管理委員会が行う。

14　選挙管理委員会は開票の結果を理事長に報告する。

付則　1　この内規は平成3年10月16日より施行する。

2　当分の間，選挙管理委員会は科学研究費調査委員会委員をもって構成する。

神経化学　　32巻　　第2号

平成5年12月20日発行
編集兼発行者　　日本神経化学会
代　表　者　　植村　慶一
発　行　所　　日本神経化学会
〒113 東京都文京区本駒込5－16－9
財団法人 日本学会事務センター内
印　刷　所　　有限会社　平和堂印刷所